

アフガニスタン

2020 年 5 月 1 日作成

2020 年 8 月 3 日更新

2020 年 12 月 3 日更新

2021 年 11 月 8 日更新

2021 年 11 月 12 日更新

1. 一般情報.....	2
(1) 地理・人口	2
(2) 略史・内政	3
2. 治安・人権状況.....	6
3. タリバンに敵対していると見なされるものの状況.....	11
(1) タリバンの概要	11
(2) タリバンによる危害の対象者	13
① 全般	13
② 政府・国際機関等の関係者	16
③ ハザラ人	22
④ 女性	23
⑤ 人権活動家・ジャーナリスト	23
⑥ 欧米風と見なされた者	23
⑦ その他、タリバンへの反対者	26
(3) 地域別の活動状況	28
① Parwan 州 Ghorband 郡	28
4. ジェンダー、DV および子ども	32
(1) 女性全般	32
(2) ハザラ人女性	38
(3) 女性の社会進出&女性教育	39
(4) DV、名誉犯罪	44
(5) 単身女性、離婚した女性の状況	46
① 離婚	46
② 離婚証明書なしの離婚	47
③ 単身女性、離婚した女性の状況	48
④ 離婚した女性に対する攻撃	51
5. LGBT	52

(1) 同性愛者、トランスジェンダー	52
6. 汚職、非国家主体による犯罪、国家保護・国内避難の選択可能性	53
(1) タリバン以外の武装勢力	53
(2) 血讐	55
(3) 武装勢力からの国家による効果的な保護	56
(4) カブールへの国内避難の選択可能性	58
7. 兵役、強制徴集（非国家主体の）	62
8. 司法制度・刑事手続【未調査】	63
9. 警察・治安部隊（刑務所等の状況含む）【未調査】	63
10. 報道の自由	63
(1) タリバンによるジャーナリスト等への攻撃	63
11. 宗教の自由	67
(1) イスラム教シーア派	67
① シーア派全般	68
② シーア派ハザラ人	68
(2) イスラム教からの改宗	68
12. 国籍、民族および人種	68
(1) ハザラ人	68
① シーア派ハザラ人	68
② ハザラ人女性	77
13. その他	77
(1) UNHCR の見解	77
略語	79

1. 一般情報

(1) 地理・人口

ア 外務省「[アフガニスタン基礎データ](#)」（2021 年 5 月 14 日）

1	面積	652,225 平方キロメートル（日本の約 1.7 倍）
2	人口	3,890 万人（2020 年 世界人口白書）
3	首都	カブール
4	民族	パシュトゥン人、タジク人、ハザラ人、ウズベク人等
5	言語	ダリー語、パシュトー語（公用語）
6	宗教	イスラム教（主にスンニ派であるが、ハザラ人はシーア派）

イ 米国国務省「[宗教の自由 2016 年 - アフガニスタン](#)」(2017 年 8 月 15 日)

米国政府は、アフガニスタンの総人口を 3330 万人（2016 年 7 月時点）と推計する。同国に占めるシーア派及びスンニ派のイスラム教徒の割合に関して、有用かつ信頼性の高い統計値は存在しない。同国政府の中央統計局（Central Statistics Office）は、この観点から分類されたデータを収集していない。シーア派の指導者は、シーア派が人口の約 20～25 パーセントを構成していると主張しているが、一方でスンニ派の指導者は、シーア派は 10 パーセントしか構成していないと主張する。

シーア派人口には、イスマイル派（Ismailis）とハザラ人（Hazaras）の大多数が含まれる。他の宗教集団、主にヒンズー教徒、シーク教徒、バハーイ教徒、及びキリスト教徒は、総人口の 0.3 パーセント未満にすぎない。シーク教徒とヒンズー教徒の数は、国外移住のために減少している。シーク教とヒンズー教の指導者は、シーク教徒とヒンズー教徒の家族数は 180、合計で 900 人の信者がいると推計しており、2015 年の 343 家族、合計 2,000 人から減少している。バハーイ教及びキリスト教コミュニティについての信頼に足る推定値は得られていない。ユダヤ教徒 1 人を含めて、他の宗教の信者もわずかにいる。

ハザラ人は主に中部及び西部の州に居住している一方、イスマイル派信徒は主にカブール（Kabul）、そして中部及び北部の州に居住している。バハーイ教の信者は主にカブールを本拠としており、カンダハール（Kandahar）には小規模なコミュニティがある。

(2) 略史・内政

ア ●英国内務省「[国別政策及び情報ノート アフガニスタン：治安・人道状況、8.0 版](#)」(2021 年 10 月)

3.1.3 On 15 August 2021, the Taliban seized control of Kabul and took over the Presidential Palace, as President Ghani fled the country and the Afghan government collapsed....

...

4.2.2 On 9 July 2021, the Taliban claimed it ‘had taken control of 85% of territory in Afghanistan’, reported Reuters. Afghan government officials dismissed the claims as ‘propaganda.’

...

4.2.6 On 11 August 2021, Al Jazeera reported that over a period of 5 days the Taliban seized control of 9 provincial capitals including the cities of Sar-ePol, Sheberghan, Aybak, Kunduz, Taluqan, Pul-e-Khumri, Farah, Zaranj and Faizabad.

4.2.7 On 15 August 2021, the Taliban seized control of Kabul and took over the Presidential Palace, as President Ghani fled the country.

4.2.8 On 22 August 2021 the Taliban were reported to be heading towards Panjshir Valley in a bid to gain control from the anti-Taliban National Resistance Front of Afghanistan (NRF), which claimed it had thousands of fighters, ‘... made up of local militias and remnants of army and special forces units.’ NRF leader, Ahmad Massoud, ‘... has called for a negotiated settlement with the Taliban but has said his forces will resist if their province in the narrow and mountainous valley is attacked,’ according to Reuters reporting on 31 August 2021, who also noted ‘A significant force of Taliban fighters has been moved to the area but the two sides have so far been engaged in negotiations and have avoided fighting.’

...

イ ●英国内務省「[国別政策及び情報ノート アフガニスタン：タリバンの恐怖、1.0 版](#)」（2021 年 10 月）

3.1.6 On 14 April 2021, the President Biden announced that all US troops would withdraw from Afghanistan before 11 September 2021^{6 7}. Formal withdrawal commenced on 1 May 2021⁸. The SIGAR quarterly report dated 30 July 2021 noted:

‘After U.S. and Coalition forces officially began drawing down in May, the Taliban launched an offensive, overrunning numerous ANDSF [Afghan National Defence and Security Forces] checkpoints, bases, and district centers... In some districts ANDSF forces put up some level of resistance and conducted a tactical (fighting) retreat, while in others they surrendered or fled in disorder... In other instances, local elders reportedly mediated truces that allowed the ANDSF defenders to leave, abandoning their U.S.-supplied equipment...’⁹

3.1.7 BBC News reported that, following the US Government’s announcement in April 2021 that all American forces would leave the country by 11 September, ‘... the Taliban began seizing vast swathes of territory, before once again toppling a government in Kabul in the wake of a foreign power withdrawing. They swept across Afghanistan in just 10 days, taking their first provincial capital on 6 August. By 15 August, they were at the gates of Kabul.’¹⁰

3.1.8 On 15 August 2021, the Taliban seized control of Kabul and took over the Presidential Palace, as President Ghani fled the country^{11 12}. Associated Press reported on 16 August 2021 ‘Fearful that the Taliban could reimpose the kind of brutal rule that all but eliminated women’s rights, Afghans rushed to leave the country, lining up at cash machines to withdraw their life savings. The desperately poor – who had left homes in the countryside for the presumed safety of the capital – remained in parks and open spaces throughout the city.’¹³

...

ウ 外務省「[アフガニスタン基礎データ](#)」(2021 年 5 月 14 日)

(3) タリバーン政権崩壊後、2001 年 12 月のボン合意に基づき、移行政権の発足、新憲法の採択・発布、大統領選挙、下院議会・県議会選挙に至る一連の統治機構整備プロセス（ボン・プロセス）を通じ民主化が進展。2014 年にはカルザイ大統領からガーニ大統領への民主的な政権交代が実現するとともに、同年末、国際治安支援部隊（ISAF）からアフガニスタン政府へ治安権限が移譲。2020 年 2 月米国とタリバーンの間で「和平合意」が成立し、同年 9 月アフガニスタン政府とタリバーンの間で初の本格的な和平交渉が開始。

エ 外務省「[アフガニスタン基礎データ](#)」(2018 年 4 月 27 日) ※リンク切れ

長年の他民族による支配の後、1747 年ドゥラーニー王朝成立。バラクザイ王朝（1826～1973 年）下の 1880 年、英国の保護領となるが、1919 年独立を達成。1973 年 7 月共和制に移行後、1978 年 4 月軍部クーデターにより人民民主党政権成立。1979 年 12 月ソ連の軍事介入のもとカルマル政権成立。1986 年 5 月ナジブラが書記長就任。1989 年 2 月ジュネーブ合意に基づき、駐留ソ連軍の撤退完了。1992 年 4 月ムジャーヒディーン・ゲリラ勢力の軍事攻勢によりナジブラ政権が崩壊し、ムジャーヒディーン政権が成立するが、各派間の主導権争いにより内戦状態が継続。1994 年頃から、イスラムへの回帰を訴えるタリバーンが勢力を伸ばし、1996 年 9 月に首都カブールを制圧、1999 年までには国土の 9 割を支配するに到った。2001 年 10 月より、米国同時多発テロ事件を機とする米・英等によるアル・カーイダ及びタリバーンに対する軍事行動が行われ、12 月には北部同盟等がタリバーン支配地域を奪還した。アフガニスタン各派の代表は今後の和平プロセスに関する合意を達成し（ボン合意）、2002 年 6 月にはこの合意に基づき緊急ロヤ・ジェルガが開催され、カルザイ暫定政権議長を大統領とする移行政権が成立した。ボン合意の要請を受け、安保理決議により国際治安支援部隊（ISAF）の設立が承認され、アフガニスタン国内の治安維持について同国政府を支援することになった。その後、憲法制定ロヤ・ジェルガの開催により、2004 年 1 月に新しい憲法が制定された。同年 10 月 9 日に第 1 回大統領選挙が行われ、カルザイ大統領が当選（12 月 7 日、大統領就任式典）。2009 年 8 月、第 2 回大統領選挙が実施され、カルザイ大統領は当選の要件である過半数の得票に届かなかったものの、対立候補が決選投票を辞退したために再選（同年 11 月 19 日大統領就任式典）。2014 年の第 3 回大統領選挙は、4 月 5 日の第一回投票と 6 月 14 日の決選投票を経ても当選者が決まらず、決選投票で劣勢となったアブドッラー・アブドッラー候補（元外相）支持者が、アシュラフ・ガーニ候補（元財務相）側による不正投票を厳しく追及して投票結果を受け入れなかったことから、事態が緊迫化した。ケリー米 국무長官（当時）が二度カブールを訪問し仲介に乗り出した結果、9 月 29 日、ガーニ候補が大統領、アブドッラー候補が新設の行政長官のポストに就任して政治権力を分け合う国家統一政府（National Unity Government）が発足した（大統領任期は 5 年）。アフガニスタン史上初めての民主的な政権交代が実現した。2014 年末、ISAF からアフガニスタン

治安部隊に治安権限が委譲され、翌 2015 年からアフガニスタン政府が自らの治安に責任を負うことになった。現在、NATO が主導する RSM（「確固たる支援」任務）によりアフガニスタン治安部隊に対し訓練、助言、支援が行われている。

オ 記事「[厳しいアフガン情勢、政府の支配力がじわじわ低下 米監査機関](#)」AFP
(2019 年 1 月 31 日)

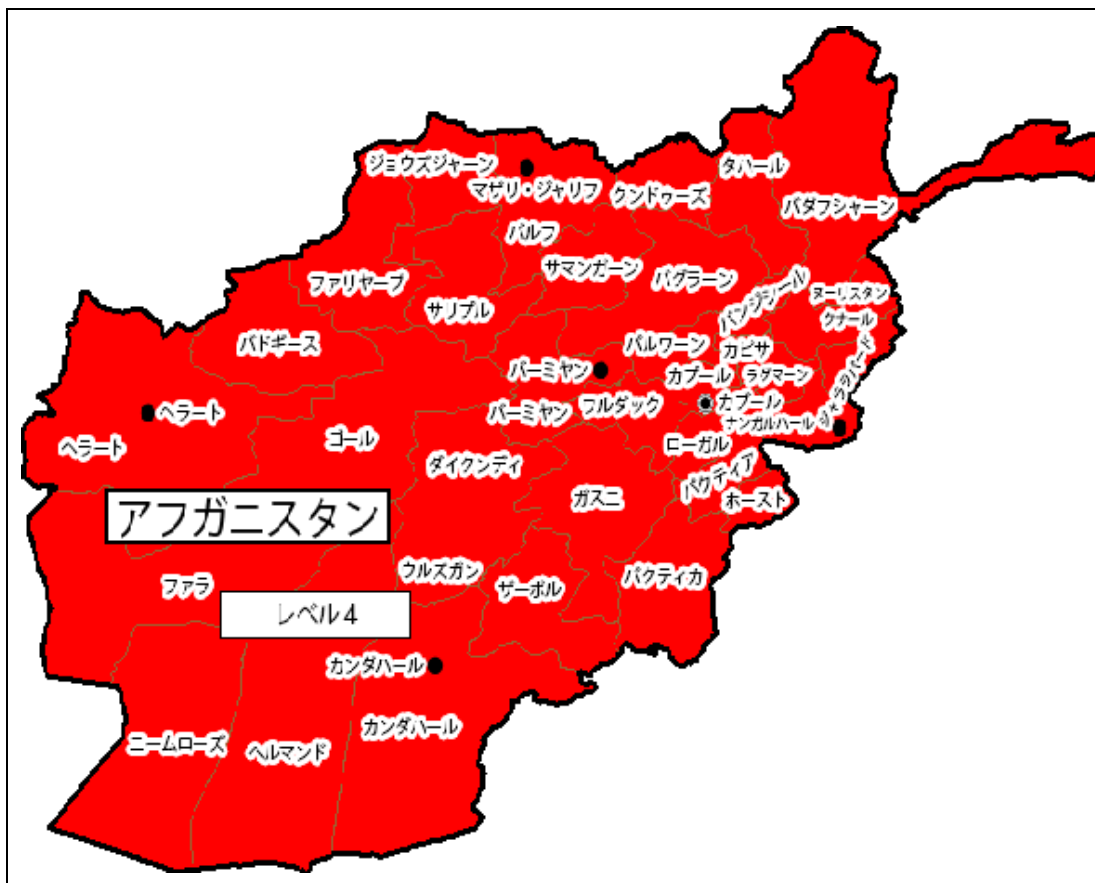
米政府の監査機関「アフガニスタン再建特別監察総監 (SIGAR)」は 30 日、米軍が反政府勢力への空爆を強化しているにもかかわらず、アフガン政府は国内の支配力をじわじわと失っているとの分析結果を発表した。

...

北大西洋条約機構 (NATO) がアフガニスタンで展開する米主導の「確固たる支援任務 (RSM)」から提供されたデータに基づき、SIGAR がまとめた報告によると、アフガン政府が支配力や影響力を保持する地域に暮らす国民の割合は、2018 年 10 月 31 日時点で 63.5%だった。

2. 治安・人権状況

ア 外務省海外安全ホームページ「[海外安全情報（危険情報）アフガニスタンの危険情報【危険レベル継続】（内容の更新）](#)」(2021 年 6 月 25 日)



【危険度】

●首都カブール

レベル 4：退避してください。渡航は止めてください。(退避勧告)(真にやむを得ない事情で現地に滞在せざるを得ない場合は、政府機関、所属団体等を通じて組織としての必要かつ十分な安全対策をとってください。)(継続)

●アフガニスタン全土(首都カブールを除く)

レベル 4：退避してください。渡航は止めてください。(退避勧告)(継続)

【ポイント】

●アフガニスタンにおいては、タリバーン等の反政府武装勢力によるテロ・襲撃等が多発しており、多数の一般市民や外国人も巻き込まれる事件が相次いでいます。2021 年 4 月に米国が 9 月 11 日までに駐留米軍をアフガニスタンから撤退させると発表し、北大西洋条約機構(NATO)も同様の決定を行いました。駐留米軍や多国籍軍の撤退により、情勢の見通しは流動的であり、今後の治安状況は全く予断を許しません。また、タリバーン以外にも「イラク・レバントのイスラム国(ISIL)ホラサーン州」等のテロ組織による活動が確認されており、引き続き注意が必要な状況です。つきましては、いかなる目的であっても、渡航は止めてください。また、既に滞在されている方は、直ちに退避してください。

...

イ ●DIS「[アフガニスタン：治安状況の最近の変化、民間人や標的にされた個人への影響](#)」(2021 年 9 月)

Impact on civilians**Civilian casualties**

According to reports from United Nations Assistance Mission in Afghanistan (UNAMA) and Afghanistan Independent Human Rights Commission (AIHRC) from July and August respectively, the first six months of 2021 have seen the number of civilian casualties rise significantly compared to the previous year.⁶⁵ UNAMA recorded 5,183 casualties – a 47 % increase, whereas AIHRC recorded 5,321 casualties which amounted to a 80 % increase compared to their data from 2020.⁶⁶

Notably, UNAMA registered 2,392 (783 killed and 1,609 injured) civilian casualties across Afghanistan in May and June alone, which marked the highest number of civilian casualties recorded in those two months since UNAMA started gathering data in 2009.⁶⁷ Since then, the conflict largely shifted from rural, sparsely populated areas into more populous urban areas, thus affecting more civilians.⁶⁸ At the time of publishing of this report, UNAMA had not released data regarding civilian casualties for the months of July and August.

...

ウ ●英国内務省「[国別政策及び情報ノート アフガニスタン：タリバンの恐怖、1.0 版](#)」（2021 年 10 月）

4.4 Situation in Kabul from 16 August 2021

4.4.1 On 17 August 2021, Martine van Bijlert of the AAN considered the Taliban as Afghanistan's new leaders, noting that, on 15 August, as the Taliban entered Kabul and police abandoned their posts, they urged the people not to be alarmed. The report added: 'Since then, Kabul city has been largely quiet, as have other cities. Although some people are venturing outside to go to work, run errands or see what the streets look like now, by far, most people seem to be hibernating while waiting to find out what the new normal will be. There have been scattered reports of looting, robberies and attempted break-ins, particularly at night, as well as reports of Taleban (or people pretending to be Taleban) confiscating armoured, police and army vehicles. The Taleban have now set up checkpoints across the city, which may avert chaos and public disorder, but will also have a chilling effect – armed men looking into every car – for those already nervous about how they will be treated under the new regime.'

エ ●英国内務省「[国別政策及び情報ノート アフガニスタン：治安・人道状況、8.0 版](#)」（2021 年 10 月）

5. Violence during internal conflict in 2020

...

5.1.4 In its Annual Report 2020, covering 1 January to 31 December 2020, UNAMA documented 8,820 civilian casualties (3,035 killed and 5,785 injured), a decrease of 15% compared to civilian casualties recorded in 2019 and the lowest number since 2013. For a breakdown of civilian casualties by province, see Annex A – Provincial breakdown of civilian casualties in 2020.

...

5.1.6 The NATO Resolute Support (RS) Mission, as reported in SIGAR's quarterly report to Congress, 30 July 2021, recorded a slightly higher number of civilian casualties than UNAMA and cited a total of 9,294 civilian casualties (3,211 killed and 6,083 injured) in 2020, a small increase compared to its 2019 figures – 9,189 (2,530 killed and 6,659 injured). SIGAR noted that RS and UNAMA used 'different methodologies to collect and assess civilian casualty data, with RS often reporting fewer civilian casualties than UNAMA.'

...

6. Violence between January and September 2021

...

6.1.6 Reporting on the first 6 months of 2021, the AIHRC recorded 5,321 civilian casualties (1,677 killed and 3,644 injured) 116 . The AIHRC noted that it divided the country into 7 work zones:

- The Central Zone: Kabul, Wardak, Kapisa, Parwan, Panjsher, Ghazni, Bamiyan, Daikundi
- The Southern Zone: Balkh, Samangan, Jawzjan, Sar-i-Pul, Faryab
- Northern Zone: Paktia, Paktika, Khost, Logar
- Eastern Zone: Nangarhar, Kunar, Laghman, Nuristan
- Western Zone: Herat, Farah, Nimruz, Badghis, Gho
- Northwestern Zone: Kunduz, Baghlan, Takhar, Badakhshan
- Southwestern Zone: Kandahar, Helmand, Uruzgan, Zabul.

...

オ ●ICG [「Afghanistan's Growing Humanitarian Crisis」](#) (2021 年 9 月 2 日)

Violence, Displacement, Food Insecurity and Deteriorating Essential Services

Unprecedented numbers of civilians were killed and injured in the early months of 2021 and at least 560,000 people were displaced, including nearly 120,000 fleeing to Kabul as they sought refuge from Taliban advances. Those numbers represent the worst-ever period in what for some years has been the world's deadliest conflict. The count of displaced people in Afghanistan over the last seven months was twice the monthly average in the last five years, and the figures are expected to grow as aid agencies' accounting catches up with the scale of the crisis. Some 80 per cent of those fleeing violence since the end of May have been women and children. Thousands of displaced people in Kabul have been sleeping in the open air, and only a minuscule portion of them escaped during the international airlift that ended on 30 August.

The UN reports that hospitals are overflowing, medical supplies are dwindling and critical infrastructure has been damaged or destroyed. Essential food supplies in many cities are running short. Pressures are especially acute in Kabul, where job losses and spiralling inflation have made it even more challenging for people to purchase food and other staples. The largest employer in the country, the Afghan National Defence and Security Forces, has dissolved. Salaries for other state employees cannot be paid because of international asset freezes. Banks are running out of cash. City parks are filled with makeshift encampments. The prices of vegetables in Kabul's bazaars have climbed 50 per cent in recent weeks, and fuel prices are up 75 per cent and rising. Kabul's airport – crucial for bringing in

humanitarian supplies and for enabling post-airlift departures for Afghans vulnerable to Taliban reprisals – was seriously damaged during the chaotic evacuation and has not yet begun operating again in the wake of the U.S. withdrawal.

...

カ ●UNHCR「[アフガニスタンへの帰還に関する UNHCR の見解](#)」refworld (2021 年 8 月)

1. In the wake of the withdrawal of international troops from Afghanistan, there has been a rapid deterioration in the security and human rights situation in large parts of the country.¹ The Taliban has taken control of a rapidly increasing number of districts, with their advance accelerating in August 2021, to capture 26 out of 34 of Afghanistan's provincial capitals in the space of ten days, ultimately taking control of the presidential palace in Kabul.² The upsurge of violence has a serious impact on civilians, including women and children.³ UNHCR is concerned about the risk of human rights violations against civilians, including against women and girls and against Afghans who are perceived by the Taliban to have a current or past association with the Afghan government or with the international military forces in Afghanistan or with international organizations in the country. ⁴
2. It is estimated that since the beginning of 2021 over 550,000 Afghans have been internally displaced by conflict within the country, including 126,000 new IDPs between 7 July 2021 and 9 August 2021. ⁵ While there are as yet no precise figures about the number of Afghans who have fled the country due to the hostilities and human rights violations, sources indicate that tens of thousands of Afghans have crossed international borders in recent weeks.⁶

キ UNHCR「[アフガニスタン出身の庇護希望者の国際保護の必要性評価に向けた UNHCR の見解](#)」(2018 年 8 月 30 日) (更新前)

c) 反政府勢力による人権侵害

報告によると、AGEs は超法規的処刑、拷問および不当な取扱いを行うとともに、移動の自由、表現の自由、宗教の自由、政治参加および教育・医療へのアクセスに対する権利ならびに効果的な救済を受ける権利を市民が行使することを妨げている。2017 年に UNAMA が記録した AGEs による市民の死傷者数は 6,768 名（死者 2,303 名・負傷者 4,465 名）で、そのうち 4,385 件（死者 1,574 名・負傷者 2,811 名）についてはタリバンが公に犯行声明を出すかまたはタリバンによるものとされ、1,000 件（死者 399 名・負傷者 601 名）についてはイスラム国が公に犯行声明を出すかまたはイスラム国によるものとされている。

...

3. タリバンに敵対していると見なされるものの状況

(1) タリバンの概要

ア 公安調査庁 [「国際テロリズム>国際テロ組織>タリバン」](#)

1) 設立時期

1994 年 11 月（注 3）

(2) 活動目的・攻撃対象

ア 活動目的

駐留外国軍の撤退及びアフガニスタン政府の打倒を当面の目標とし、その後、「アフガニスタン・イスラム首長国」による政府を樹立し、シャリーアに基づく統治体制の確立を目指す。

イ 攻撃対象

主な攻撃目標として、声明などで、①駐留外国軍及び大使館、②アフガニスタン軍、警察及び情報機関、③政府高官、国会議員、④外国人—などを列挙している。

(3) 活動地域

アフガニスタンのほぼ全土で活動がみられる。また、「タリバン」幹部の多くは、パキスタン西部・バルチスタン州クエッタ及び北西部・カイバル・パシュトゥンクワ州パシャワールなどアフガニスタンとの国境地帯に潜伏しているとされる。

(4) 勢力

総数は、約 3 万人（注 4）との指摘や 6 万人（注 5）との指摘がある。「タリバン」が支配している又は影響力を持つ地域やパキスタンのマドラサ（イスラム神学校）及び難民キャンプなどから戦闘員を確保しているほか、国軍兵士や警察官など戦闘経験を有する者を積極的に勧誘しているとされる。

…

(7) 最近の主な活動状況

ア 概況

「タリバン」は、例年、冬季にはテロを低減させているが、気候の安定する春になると特定の作戦名を冠した「春季攻勢」の開始を宣言し、テロを急増させている。

2014 年以降、「タリバン」の戦術は、IED など爆発物の強力化のほか、数百人単位で一定の地域を占領する襲撃事案の増加がみられ、2015 年 9 月には、「タリバン」政権崩壊後、初めて地方の主要都市であるアフガニスタン北東部・クンドゥーズ州都クンドゥーズを数日間占拠した。また、北部、南部の農村部及び山岳部を中心に支配地域を拡大しており、2017 年 8 月時点で、アフガニスタン全行政区の 13% を支配又は影響下に置き、全行政区の 30% で支配をめぐる政府と争っている（注

17) が、2017 年の後半には、土地を占拠する戦術から、再度、治安部隊などに対して攻撃を仕掛けて逃走するヒット・エンド・ラン戦術に回帰しているとの指摘もある（注 18）。

「タリバン」は、アフガニスタン国内での攻撃を継続する一方で、2015 年 7 月、パキスタン首都イスラマバード近郊で、アフガニスタン政府との初めての公式和平協議を行った。しかし、同月末に予定されていた第 2 回協議の直前、最高指導者オマルが死亡していたことが明らかになり、それに伴う指導者交代及びその後の組織内の混乱から、アフガニスタン政府との和平協議は中断した。その後、指導者が再度交代したが、「タリバン」の対決姿勢は変わらず、和平協議再開の目途は立っていない。このほか、「タリバン」は、2015 年 1 月に設立された ISIL の「ホラサン州」が、アフガニスタン東部を中心に活動範囲を広げつつあったことを受け、同年 6 月、ISIL 最高指導者アブ・バクル・アル・バクダディに対し、「タリバン」副指導者名でアフガニスタンへの干渉をやめるよう求める書簡を発出した。しかし、両勢力はその後、アフガニスタン東部を中心に衝突を繰り返している。

イ ●英国内務省「[国別政策及び情報ノート アフガニスタン：タリバンの恐怖、1.0 版](#)」（2021 年 10 月）

2.4.2 The Taliban is a highly conservative political-religious and non-democratic movement which applied a strict interpretation of Sharia (Islamic law) when in power between 1996 and 2001. This included imposing harsh punishments on persons who did not conform to this law. Since entering Kabul, the Taliban have indicated their intention to implement Sharia across the country, albeit with greater respect for women's and human rights. Additionally the group announced a 'general amnesty' on 17 August 2021 for members of the (former) government and international community (see Ideology, aims and objectives, Taliban declare a 'general amnesty' and Potentially vulnerable groups).

2.4.3 At the time of writing, it is difficult to assess whether the Taliban's claims of a more tolerant and inclusive system than their rule of 1996–2001 is likely, given both the limited time since they have gained control of Kabul (and the country as a whole), the potential that the rhetoric does not match the intention, that there was still international media in Kabul as well as international troops (until 31 August), and that the Taliban have become increasingly adept at using PR (see Limits on reporting and Ideology, aims and objectives).

...

ウ ●DFAT「[出身国情報報告 アフガニスタン](#)」（2019 年 6 月 27 日）

2.56 The Taliban remains the most significant AGE. It is an umbrella organisation comprising loosely connected insurgent groups, including more or less autonomous

groups with varying degrees of loyalty to the leadership and the concept of the Islamic Emirate. The Taliban's organisational structure is hierarchical: a 'Commander of the Faithful' gives moral, religious, and political statements, oversees judges, courts, and political commissions, assigns shadow governors, and is in command of the military organisation. The total manpower of the Taliban, including combatants and support elements, is likely to exceed 100,000. Of these, analysts suggest that between 60,000 to 70,000 are fighters, some of whom are in fulltime, mobile units based outside Afghanistan who deploy to Afghanistan during the fighting season, and the remainder are in local militias. The UN Security Council reported in May 2018 that the Taliban had undertaken a restructuring that constituted generational change: the provincial shadow and deputy shadow governors, along with provincial military commanders, were all replaced in the provinces of Bamiyan, Baghlan, Kabul, Kapisa, Kunar, Laghman, Parwan, Samangan, Takhar, and Uruzgan.

(2) タリバンによる危害の対象者

① 全般

ア ●英国内務省「[国別政策及び情報ノート アフガニスタン：タリバンの恐怖、1.0 版](#)」（2021 年 10 月）

2.4.6 There are reports of human rights abuses, in some parts of the country captured over the past few weeks, including summary executions, beheadings and forced marriage of girls. Some protests against the Taliban have occurred in some districts. According to reports, the Taliban responded by firing into the crowds, wounding and killing some protestors (see Persons who resist or oppose the Taliban, Limits on reporting and Potentially vulnerable groups).

2.4.7 In the past, civilians associated with, or perceived to have supported, the (former) Government, civil society and the international community in Afghanistan – including the international military forces and international humanitarian and development actors – have been subject to intimidation, threats, abductions and targeted attacks by groups such as the Taliban (see Limits on reporting and Potentially vulnerable groups).

2.4.8 Other groups, though not exhaustive, may include: members of the security forces; civilians accused of spying; judges, prosecutors and judicial staff; journalists and other media professionals; persons deemed to have transgressed cultural or religious mores; teachers and those involved in the education sector including students; tribal elders and religious leaders who resist the Taliban's doctrine; healthcare workers, humanitarian workers and human rights activists; women in the public sphere; LGBTIQ+ persons; and families supporting or perceived to be associated with the above (see Potentially vulnerable groups).

...

2.4.11 However, the current evidence suggests that persons likely to be at risk of persecution, because they may be considered a threat or do not conform to the Taliban's strict interpretation of Sharia law, include but are not limited to:

- Former government employees and members of the Afghan National Armed Forces (ANSF), including the police
- Former employees/those linked to international forces and organisations, including interpreters
- Women in the public sphere
- ethnic/religious minorities, in particular Hazara
- Persons who have credibly resisted, or are perceived to resist, Taliban requests or control, or who do not conform to, or are perceived to not conform to, strict cultural and religious expectations/mores – in particular women
- journalists critical of the Taliban
- LGBTIQ+ persons

イ ●DIS「[アフガニスタン：治安状況の最近の変化、民間人や標的にされた個人への影響](#)」（2021 年 9 月）

要約

...

As the Taliban expanded their territorial control in May, June, July and August, there are documented examples of the civilian population perceived as opposing the ideology of Taliban being targeted by the Taliban around the country. The targeted individuals include government officials, journalists, human rights defenders, Afghans employed by foreign forces as well as former members of the Afghan security forces.

However, the treatment of individuals perceived as adversaries by Taliban fighters has not been uniform throughout the country.

...

The targeting of individuals perceived as opposing the Taliban, contradicts statements from Taliban political leadership. Since seizing control of Kabul on 15 August, the leadership have repeated a message of amnesty and vowed no reprisals against former enemies.

...

Targeted individuals

...

On their first press conference on 17 August 2021 after seizing control of Kabul, long

time spokesman of the Taliban, Zabihullah Mujahid, stated that the Taliban regarded the war in Afghanistan as over and, contrary to their actions in the 1990s, vowed no reprisals against former enemies and adversaries going forward.⁹⁵ According to SER, there are, however, no reason to believe that this will be the case since there have been no indications during the last 20 years that Taliban have moderated their conservative interpretations of Islam. This has been documented in areas, which the movement have governed throughout the of course of the conflict.⁹⁶

These variations between official statements from the leadership and actions on the ground, occur because the Taliban is made up of many different fractions with varying degrees of loyalty to the leadership, according to Dr. Mike Martin, Visiting Research Fellow at Kings College and Professor Christopher Ankersen, Centre for Global Affairs at New York University.⁹⁷ Martin further argued that the speed at which the Taliban conquered Afghanistan has come as a surprise to the leaders themselves, and as such, there was no national political framework in place when they captured Kabul.⁹⁸

...

ウ 外務省海外安全ホームページ「[海外安全情報（危険情報）アフガニスタンの危険情報【危険レベル継続】（内容の更新）](#)」（2018 年 10 月 9 日）

- 1) アフガニスタンでは、主要な反政府武装勢力であるタリバーンの他、「ISIL ホラサーン州」と称する勢力等が各地で攻撃を繰り返しており、厳しい治安情勢が続いています。治安部隊による警備・警戒が特に強化されている首都カブール市内でも、即席爆発装置（IED）の爆発、銃撃、自爆攻撃等のテロ攻撃が多発しています。政府関係者、議員、軍・治安部隊、駐留外国軍、各国の大使館・総領事館等が主な攻撃対象となっているほか、一般市民や外国人も巻き込まれる事件が相次いでいます。また、タリバーンは、米軍をはじめとする駐留外国軍がアフガニスタンから完全に撤退するまで戦闘を継続する姿勢を示しています。これらを踏まえれば、今後も、アフガニスタンの治安情勢は厳しい状況が継続すると考えられます。
- 2) ...
- 3) 首都カブールをはじめ、全土でタリバーン等の反政府武装勢力が政治目的に行う誘拐、及び犯罪グループによる身代金目的の誘拐が発生しています。政府・治安部隊関係者、ビジネスマン、ジャーナリスト、援助関係者等の他、外国人も被害に遭っています。2016 年以降、援助関係者や大学勤務者等が巻き込まれており、邦人に関しては、2008 年の東部ナンガルハール県での援助関係者の誘拐・殺害事件、2010 年のクンドゥーズ県でのジャーナリストの誘拐事件（約 5 ヶ月後に解放）があります。
- 4) ...
- 5) 下院議員選挙等の実施（現時点で本年 10 月 20 日）が予定されています。し

かし、反政府武装勢力は選挙有権者登録所を襲撃、また有権者登録をしないよう一般市民を脅迫するなどの妨害をしています。選挙日を迎えるにあたり、治安情勢は一層不安定になる可能性があります。

エ **UNHCR「アフガニスタン出身の庇護希望者の国際保護の必要性評価に向けた UNHCR の見解」** (2018 年 8 月 30 日)

A. リスクとなる経歴

1. 政府および国際社会（国際部隊を含む）と関係がある個人またはこれらに協力的であると見なされる個人

AGEs は、アフガニスタン政府、政府派の武装グループ、アフガニスタンの市民社会およびアフガニスタン国内の国際社会（国際部隊および国際人道・開発機関を含む）と関係がある市民または これらを支持していると見なされる市民を組織的に標的にしているとされる 248。これらの主体の いずれかとの関係（またはそう見なされること）は、例えば、現在もしくはかつての雇用関係または家族的なつながりを通じて生じる場合がある 249。標的とされてきた市民には、地区や州の知事、裁判所・検察庁の職員、元警察官および非番中の警察官、部族の長老、宗教学者・宗教的指導者、公的な立場にある女性、教員および他の民政機関の職員、AGE の価値観に反対していると見なされる市民、人権活動家ならびに人道・開発援助関係者が含まれる 250。

...

② 政府・国際機関等の関係者

ア ●英国内務省「**国別政策及び情報ノート アフガニスタン：タリバンの恐怖、1.0 版**」 (2021 年 10 月)

5.2 Persons associated with, or supporting, the Afghan government or international community

...

5.2.2 In a tweet from 16 August 2021 by Mustafa Kazemi, an independent journalist based in Afghanistan, noted: ‘Taliban started door to door search looking for govt officials, former police & security forces members & those who worked for foreign countries NGOs or infrastructures in Afghanistan. At least 3 journalists' houses were searched in the last hour. Kabul is now becoming deadly.’ 90

...

5.2.3 On 17 August 2021, France24 reported on the Taliban’s announcement of a ‘general amnesty’ for government employees, as they urged them to return to work. The report noted that ‘Some appeared to take the advice to heart, with white-capped traffic police reappearing on the streets for the first time in days.’ 91

5.2.4 The Associated Press (AP) reported on 18 August 2021 that Taliban spokesman, Zabihullah Mujahid, ‘... reiterated that the Taliban have offered full amnesty to Afghans who worked for the U.S. and the Western-backed government, saying “nobody will go to their doors to ask why they helped.” However, the AP report added, ‘Kabul residents say groups of armed men have been going door-to-door seeking out individuals who worked with the ousted government and security forces, but it was unclear if the gunmen were Taliban or criminals posing as militants. Mujahid blamed the security breakdown on the former government, saying the Taliban only entered Kabul in order to restore law and order after the police melted away.’ 92

5.2.5 However, Taliban were reported to be hunting individuals linked to the previous administration, according to a report seen by Reuters on 19 August 2021, by the non-profit RHIPTO Norwegian Center for Global Analyses, which makes independent intelligence assessments. Reuters cited the report, which had been shared with agencies and the UN, “Taliban are intensifying the hunt-down of all individuals and collaborators with the former regime, and if unsuccessful, target and arrest the families and punish them according to their own interpretation of Sharia law.” 93

...

5.3 Persons associated with international military forces, including interpreters

...

5.3.2 An article by Gandhara (Radio Free Europe/Radio Liberty), dated 16 June 2021, stated:

‘The Taliban has vowed for years that it will kill any Afghans who have worked for U.S. and NATO forces in Afghanistan, branding them “traitors.”... An estimated 300,000 Afghan civilians have worked for international forces in some capacity since the U.S.-led invasion in 2001, including as cooks, cleaners, manual laborers, mechanics, interpreters, and security guards...

‘Around 300 Afghans who worked for the U.S. military or their family members have been killed since 2016, according to No One Left Behind, a U.S. nongovernmental organization that works with Afghan interpreters to help them relocate to the United States. The group estimates that on average two interpreters a month have been killed this year. The death toll increased to five during May [2021].

‘Afghan interpreters working for foreign forces have been particularly susceptible to militant attacks. They are often sought out by militants, who have labeled them “spies” for acting as the eyes and ears of the foreign “occupiers.” The Gandhara article further added: ‘Afghans who have worked for foreign forces usually hide their identities and keep a low profile. But many have vented their frustration in public recently. Hundreds have staged rallies in the capital, Kabul, in recent weeks [prior to the Taliban entering the

city], demanding those Western nations they worked for relocate them outside of Afghanistan.’⁹⁵

5.3.3 According to Atalayar, a Spanish news outlet reporting on 24 June 2021, ‘Within the translators, women face an even greater risk compared to their male counterparts. As Julie Kornfeld, an asylum lawyer, explains, “while Afghans linked to the US are at great risk of retaliation from the Taliban and other militias, women in particular face constant threats, not only for having worked with the US, but also for working in positions that the Taliban deem unsuitable for women”.’⁹⁶ (See also: Women)

5.3.4 An interpreter working for the US Army was beheaded by the Taliban, according to CNN on 23 July 2021. Sohail Pardis claimed he had received death threats and, whilst travelling to Khost from Kabul, witnesses said he was stopped at a checkpoint by Taliban who accused him of being a spy. The Taliban told CNN they were attempting to verify the incident⁹⁷. On 15 August 2021, CNN reported on a former interpreter for the US Marine Corps, who was attempting to get a visa to the US, stated he and his family had been in hiding for 5 years in fear of retribution by the Taliban⁹⁸.

...

イ ●EASO「[出身国情報報告 アフガニスタン：治安状況の更新](#)」(2021 年 9 月)

Persons with links to the previous administration and foreign forces

Reuters claims to have seen an intelligence report by RHIPTO Norwegian Center for Global Analyses that contains information on the Taliban rounding up Afghans on a blacklist and hunting down people with suspected links to the previous administration or US-led forces, noting that those ‘particularly at risk are individuals in central positions in military, police and investigative units.’ However, the original document is not publicly accessible.⁹³ Christian Nellemann who heads the group behind the report told BBC that ‘there are a high number of individuals that are currently being targeted by the Taliban and the threat is crystal clear’.⁹⁴ France 24 Observers refers to local sources that also claim that the Taliban conducts house-to-house visits to find blacklisted individuals, and that such searches have taken place in at least four provincial cities. The Taliban is also said to visit local mosques and police offices to receive information on certain individuals.⁹⁵

...

ウ ●DIS「[アフガニスタン：治安状況の最近の変化、民間人や標的にされた個人への影響](#)」(2021 年 9 月)

Targeted individuals

...

During the course of the Taliban offensive, as well as after the conquest of Kabul, there

have been reports of the Taliban targeting members of the civilian population and the Afghan military as well their families. According to SER, members of Taliban have been going door to door and arresting or threatening family members of targeted individuals. He explained how members of the Taliban came to the house in Kabul of a colleague of his knocking on the door. Being a journalist, he was hiding inside his house with his family and the Taliban left. He had been warned over the telephone by his neighbour and he immediately thereafter moved to a hotel, knowing that the Taliban knew his address.⁹⁹

Afghans working for foreign states and international organisations

In July 2021, the Taliban leadership announced that the organisation would not harm any Afghan currently or previously employed by foreign forces as long as they stopped their work and showed remorse.¹²⁰ This message was repeated by Taliban spokesman, Suhail Shaheen, after the Taliban captured Kabul on 15 August.¹²¹ This announcement contradicts previous statements from the Taliban. In 2018, the organisation stated on their official website that killing those who supported foreign troops, including interpreters, remained a top priority.¹²² Furthermore, according to article 11 of the Taliban's Code of Conduct, any Afghan working for foreign powers in Afghanistan ought to be executed.¹²³

According to Human Rights Watch (HRW), there have been reports of the Taliban actively searching for civilians with ties to the Afghan government or foreign powers in newly captured districts in both Kandahar and Ghazni provinces.¹²⁴ Similarly, the Telegraph reported in early August that the Taliban going from door to door in newly captured parts of Helmand's provincial Capital, Lashkar Gah, searching for civilians currently or previously employed by foreign forces in the country.¹²⁵ In their 2021 midyear report on civilian casualties in Afghanistan, UNAMA noted that reports of the Taliban targeting individuals perceived as adversaries directly contradicted the aforementioned statement by the Taliban leadership.¹²⁶

SER assessed that Afghans who were previously employed by foreign powers or international organisations currently face varying differentiated levels of vulnerability and risk depending on which organisations they were employed by. As an example, SER advised that the best of his knowledge, people previously employed by the U.S. embassy would face greater risk compared to those employed by a UN organisation.

Recent incidents of targeted attacks against civilians employed by the international community include:

- 12 May: An Afghan interpreter, previously employed by American troops, captured and decapitated on his way from Kabul to Khost province.¹²⁷
- 9 June: 10 deminers killed and 12 injured while working for the international NGO, Halo Trust, in Baghlan province. All the victims were ethnic Hazara. ISKP claimed

responsibility for the attack. 128

- 29 July: The Taliban attacks UNAMAs headquarters in Herat City. Two guards were injured.129

Government employees and perceived supporters of the former government

The Taliban officials claim their forces are under orders to protect civilians, but they have previously excluded from that category civilian employees of the former Afghan government.130

After the capture of Kabul, Taliban have stated that former government employees could return to their work in the capital and across the country without fear of recrimination.131 SER assessed that some Afghans previously employed by the former government could continue their work within public administration because the Taliban need skilled people to maintain the function of the public sector. Examples of this include the Mayor of Kabul and the Minister of Health.132

As the Taliban advanced through the districts and provinces of Afghanistan, there has been reports of organisation targeting former and current employees of the former Afghan government as well as perceived supporters of the former government in various districts in Helmand, Ghazni and Kandahar provinces.133 The Taliban have reportedly seized biometric identification devices and records of Afghans employed by the former government.134

Recent incidents of targeted attacks against government employees and perceived supporters of the former government include:

- 21-25 June: The Taliban burns down houses of alleged supporters of the government in Kunduz province.135
- 19 July: The Taliban kills two sons of a Kandahar provincial council member.136
- 3 August: The Taliban kills the district governor of Sayed Abad in Maidan Wardak, Amir Mohammad Malikzai, in Kabul.137

エ ●DFAT「出身国情報報告 アフガニスタン」(2019 年 6 月 27 日)

3.42 Insurgent and terrorist groups, particularly the Taliban, have openly targeted Afghans of all ethnicities working for, supporting or associated with the government and/or the international community. This includes, but is not limited to, government employees, judges and prosecutors, judicial workers, police, and Afghan and international security force personnel. Such people are often subject to intimidation, threats, abduction (see Kidnapping/ Abductions), and targeted killings (see Extra-Judicial Killings). Attacks occur throughout Afghanistan, but are particularly prevalent in Kabul.

...

3.44 In 2018, UNAMA documented a rise in civilian casualties resulting from the targeting of the civilian government administration, aid workers and staff working for NGOs; and a significant spike in civilian casualties from attacks against education-related personnel and locations during the electoral period. According to UNAMA, the Taliban claimed responsibility for 153 attacks that resulted in civilian casualties in 2018, causing 319 deaths and 624 injuries. 61 of the attacks were directed against security or military forces. The remaining 92 targeted civilians or civilian locations, defined by UNAMA as including government administrators, judges, prosecutors and judicial staff, humanitarian de-miners, and tribal elders, among others. Fifty of the attacks were election-related. A further 1,029 deaths and 2,100 injuries of civilians occurred in incidents that UNAMA attributed to the Taliban but which were not publicly claimed. The total number of civilian casualties (deaths and injuries combined) attributed to the Taliban represented a slight (seven per cent) decrease from 2017, mainly due to a 23 per cent decrease in civilian casualties from targeted killings. The 2017 figures themselves represented a 12 per cent decrease in civilian casualties compared with 2016, although UNAMA noted that this may represent under-reporting caused by lack of access to Taliban-controlled areas.

●DFAT「出身国情報報告 アフガニスタン」(2017 年 9 月 18 日) ※更新前

2.41 UNAMA attributed almost all of the 2016 incidents to anti-government elements, who generally abducted civilians based on suspicions that they had connections to, or worked for, the government or security forces. However, UNAMA reported that there were also cases of anti-government elements abducting civilians for financial gain, with release predicated on payment of a substantial ransom. While most abductees were released unharmed following payment of ransoms or negotiations with local elders, anti-government elements often killed those abductees identified as off-duty members of the Afghan national security forces or their family members, civilian government staff, or people perceived to be government spies. Anti-government elements injured abducted civilians by beating or torturing them, or by shooting them during the initial abduction.

2.42 UNAMA documented five situations of mass abduction in 2016 in which anti-government elements abducted large groups of 45-200 civilians, with a view to identifying members of the Afghan national security forces. For example, in February anti-government elements stopped two private vehicles in Faryab province and abducted 110 male passengers, subsequently releasing 104 who provided civilian identity cards. The abductors released the remaining six detainees after conducting investigations into their identities and determining no connection to Afghan national security forces.

3.19 Insurgent and terrorist groups, particularly the Taliban, have openly targeted Afghans of all ethnicities working for, supporting or associated with the government and/or the international community. This includes, but is not limited to, government employees,

judges and prosecutors, judicial workers, police, and Afghan and international security force personnel. Such people are often subject to intimidation, threats, abduction and targeted killings. These attacks occur throughout Afghanistan, but are particularly prevalent in Kabul.

3.20 According to UNAMA, in 2016 the Taliban claimed responsibility for 143 attacks against security or military forces and a further 82 attacks against civilians or civilian locations, all of which resulted in civilian casualties. UNAMA's definition of civilians and civilian locations includes government administrators, judges, prosecutors and judicial staff, humanitarian de-miners, and tribal elders, amongst others. The 225 attacks claimed by the Taliban killed 358 people and injured 1,106, and included the abduction of 260 civilians. The number of attacks claimed by the Taliban represented a 36 per cent decrease compared to the previous year, but the number of civilian casualties occurring during the attacks was comparable to the previous year. Most civilian casualties resulting from attacks claimed by the Taliban resulted from suicide and complex attacks carried out in civilian-populated areas. UNAMA's Mid-Year Report for 2017 reported that the Taliban had claimed responsibility for 54 attacks against security or military forces and a further 41 attacks against civilians or civilian locations. All of the attacks resulted in civilian casualties.

3.21 Many of the significant attacks carried out by the Taliban and other insurgent groups against government and/or international community targets in 2016 and the first half of 2017 occurred in Kabul. Attacks in 2016 included:

...

3.22 In most cases, people working with the government or the international community take substantial measures to mitigate the risks they face. This includes concealing their employment from their families, not travelling with documentation that would identify them as employees of international organisations, and deleting contact information from phones. Some international organisations reportedly instruct their staff not to carry identification that may incriminate them in this manner

3.23 DFAT assesses that people working for, supporting or associated with the government and/or the international community (or perceived to be doing so) face a high risk of violence perpetrated by anti-government elements, particularly the Taliban. While ethnicity and religion are unlikely to be primary motivations for attacks on government workers, in some cases these issues may be contributing factors. Given the methods of attack used are highly indiscriminate in nature, this risk applies whether or not the person is the specific target of the attack or is a lower level employee of the organisation in question.

③ ハザラ人

ア [後記 12\(1\)](#)を参照。

④ 女性

ア [後記 4](#) を参照。

⑤ 人権活動家・ジャーナリスト

ア ●EASO「[出身国情報報告 アフガニスタン：治安状況の更新](#)」(2021 年 9 月)

Human rights activists

There are few reports on the current situation of human rights activists. France 24 Observers reports that human rights activists have gone into hiding due to the difficulties of leaving Afghanistan following the take-over.¹⁰¹

In an interview Rina Amiri, senior fellow at the New York University's Center for Global Affairs, claims to be in 'intense contact' with several women in Afghanistan, and that she gets reports of the Taliban intimidating journalists and activists at their offices and in their houses. According to Amiri, prominent women's organisations and human rights organisations have experienced such raids, and the Taliban have gone looking through their work material and phones.¹⁰² Human Rights Watch also state that the Taliban have raided homes of activists.¹⁰³ In a recent interview with Thomson Reuters Foundation, former parliamentarian and women's rights defender Fawzia Koofia mentioned that women still appeared in media describing the changes taking place in their communities. Koofia also mentioned that the current situation is getting increasingly difficult for women's rights defenders.¹⁰⁴

イ ジャーナリストについては、[後記 10\(1\)](#)を参照。

⑥ 欧米風と見なされた者

ア ●英国内務省「[国別政策及び情報ノート アフガニスタン：タリバンの恐怖、1.0 版](#)」(2021 年 10 月)

5.9 Transgressors of religious, cultural and social norms

5.9.1 A June 2020 Human Rights Watch (HRW) report based on 138 interviews including 120 in-person interviews with Taliban officials, commanders, and fighters, as well as interviews with teachers, doctors, elders, students, and other local residents, which focussed on the everyday experiences of people living in Taliban-held districts in Helmand, Kunduz and Wardak provinces, noted, 'As the Taliban has gained control of districts across Afghanistan, "vice and virtue" officials again have a role in enforcing social norms.' ¹⁵⁴

5.9.2 The same report explained:

'These officials patrol communities to monitor residents' adherence to Taliban

prescribed social codes regarding dress and public deportment, beard length, men's attendance at Friday prayers, and use of smartphones or other technological devices. The rigidity or flexibility with which the Taliban impose these rules varies by province and district, with Kunduz among the most flexible and Helmand among the least. Violating the rules can result in a warning for a first-time or relatively minor offense. While public punishment for infractions is infrequent compared to the 1990s, for offenses deemed more serious, Taliban officials have imprisoned residents and inflicted corporal punishments such as beatings.'¹⁵⁵

5.9.3 The HRW report also noted:

'The Taliban's experience in provinces like Helmand, where the rural population generally wears traditional dress, has influenced their approach to local variations in dress and appearance elsewhere in Afghanistan. In Kunduz province, particularly in more urban areas, and to some extent in Wardak, men (but very seldom women) sometimes wear more Western clothes. As the Taliban has gained control of districts in these provinces, some residents have switched back to more traditional clothes to avoid facing threats or punishment by the Taliban...'¹⁵⁶

5.9.4 Furthermore, HRW stated, 'Taliban officials prohibit watching television in some districts and residents who watch TV do so in secret. Similarly, some Taliban officials impose restrictions on smartphones or ban them outright, limiting residents' access to information and their ability to communicate, study, or work using the internet.'¹⁵⁷

...

イ ●EASO「[COI クエリー回答 アフガニスタン：「欧米風」と見なされた者の取扱い](#)」 ecoi (2020 年 9 月 2 日)

Behaviour and appearance seen as 'Westernised'

While abroad, returnees may have been exposed to a more liberal environment that could make integration in Afghanistan more difficult.¹ Rejection by the family and society could be triggered by 'speaking with an accent, engaging into conversation when not talked to, dressing differently, going to the gym, using skype to speak to friends abroad', as reported by Asylos in their August 2017 study on returnees from Western countries to Kabul.² Other reasons include a different haircut and style of dress³, relaxed position towards religion or consumption of alcohol. ⁴ Friederike Stahlmann, a social scientist and an Afghan expert from Germany,⁵ stated in an expert opinion for a German court, in support of an asylum case, that in Afghanistan, all returnees from Europe are suspected that they have adapted themselves to the [informal translation] 'European culture and lifestyle' while abroad. ⁶ The United Nations High Commissioner for Refugees (UNHCR) indicated that the returnees can be seen with suspicion by both, local communities and state authorities. ⁷

...

Stahlmann noted that deportations of Afghans from Europe are widely covered in the media and deportees are often identified by their full name what makes their return to the country publicly known.¹⁰ And, according to Stahlmann, the longer time the deportees have spent abroad, the more difficult will it be for them to hide the changes in their behaviour and looks and to fit in.¹¹ According to the Danish Refugee Council (DRC), '[t]he risk of being suspected is greater the longer you have been outside Afghanistan and the further away you have been.'¹²

The Austrian Centre for Country of Origin and Asylum Research and Documentation (ACCORD) referred to Melissa Kerr Chiovenda, an anthropologist at the Zayed University in Abu Dhabi, who noted in an email that [informal translation]:

'[M]any Afghans who return from the West certainly are viewed with suspicion, and the degree to which they experience this depends upon where they are from and their social class. (ie someone from Kabul would have an easier time than someone from Jalalabad, someone from an educated class that has sent a lot of people to study in the West would have an easier time than someone who was a farmer)....

...

Anti-Government Elements (AGEs)

In their August 2018 report, the UNHCR noted that '[t]here are reports of individuals who returned from Western countries [to Afghanistan] having been threatened, tortured or killed by AGEs [AntiGovernment Elements] on the grounds that they were perceived to have adopted values associated with these countries, or they had become "foreigners" or that they were spies for or supported a Western country.'⁹⁰ The same source indicated that the following individuals could be additionally seen as Westernised by the AGEs: humanitarian and development workers, and women in public sphere.⁹¹

In their December 2019 report, UNHCR quoted F. Stahlmann who concluded that: 'The fact of having been in Europe is enough to be targeted by the Taliban. From the Taliban's point of view, Afghans who risked their lives to ask the "infidel occupiers" for protection "clearly defected to the other side." They are not only accused of being infidels, but also of being spies and traitors.'⁹² In an online event organized by the ACCORD in May 2020, Stahlmann noted that in relation to the Taliban, the accusation of being an unbeliever may have two meanings, religious and political. The latter could imply a person who was in contact with their perceived enemy.⁹³

According to Stahlmann, emigration to Europe is seen as an act of political opposition by the Taliban. All those seen as the opponents could be declared apostates, spies or foreigners, which could bring them to a deadly danger.⁹⁴ Two deportees from Australia have been previously killed by the Taliban on the ground of being in an infidel country.⁹⁵ In 2016, RSN reported on a young returnee from Norway killed by the Taliban.⁹⁶ In their annual report covering 2019, Amnesty International stated that '[u]pon their return, many Afghans

were exposed to renewed threats and violence from armed groups and local militias they had sought to escape’, without providing further details.⁹⁷

According to Friederike Sstahlmann, returnees from Europe could be betrayed to the Taliban also in big cities Kabul, Herat, Mazar-e Sharif and Jalabalad and the risk [informal translation] ‘is really based only on the escape [to Europe]’. ⁹⁸ The source further indicates that there is ‘a big difference’ between those who had gone to Iran and those who had gone to Europe and that emigration to Iran is not seen as ‘an escape’ by the Taliban.⁹⁹ F. Stahlmann has documented a case of two Afghans returned to Afghanistan from Germany, who were arrested by the Taliban at a checkpoint. They came under the suspicion because they didn’t wear a beard. They were later mistreated because they were suspected of working for ‘the unbelievers’. ¹⁰⁰ The same source concluded that [informal translation] ‘violence against deportees or their families due to their return is not only to be expected, but also occurs within a very short time.’ ¹⁰¹

...

ウ 公安調査庁「[国際テロリズム要覧>学校等に対するテロ](#)」

アフガニスタンやパキスタンでは、欧米流の教育への反対を唱える武装組織等が学校の爆破や女生徒を狙った襲撃などを実行している。2016 年 8 月、カブールのアメリカン大学が武装勢力に襲撃され、19 人が死亡したほか、2017 年 6 月には、パキスタンで中国人教師が殺害され、後者の事件については、ISIL の「ホラサン州」が犯行を自認した。

...

別表 最近 3 か年の学校等に対するテロ発生状況(未遂含む。IHS Markit 社のデータに基づく)

国名	2015 年	2016 年	2017 年	計
アフガニスタン	44	22	9	75

⑦ その他、タリバンへの反対者

ア ●英国内務省「[国別政策及び情報ノート アフガニスタン：タリバンの恐怖、1.0 版](#)」(2021 年 10 月)

5.10 Persons who resist or oppose the Taliban

5.10.1 An article published by Human Rights Watch (HRW), dated 30 June 2020, stated ‘Criticizing Taliban military activities is strictly forbidden; fear of retaliation keeps residents from advocating for their own protection. Although deploying forces in populated villages without taking all feasible precautions to protect civilians from attack is a violation of the laws of war, the Taliban have sometimes punished residents who have

complained about Taliban forces entering their homes and firing on government troops.¹⁶⁹

5.10.2 On 18 August 2021, The Indian Express reported:

‘As thousands of Afghans attempt to flee Taliban rule following their brutal takeover, videos emerged on social media of a small group of women holding placards and demanding equal rights on the streets of Kabul — reportedly the first agitation of its kind since the militant group seized control of the country.

‘Four women in black abayas and hijabs were seen holding up signs and shouting slogans even as Taliban fighters patrolled nearby. In another clip, shared by an Al Jazeera correspondent, more women were seen marching through the streets, chanting slogans. The armed men seem to be pointing and speaking to the women, but don’t appear to be getting in the way of their protest.’¹⁷⁰

5.10.3 On 18 August 2021, Social media users¹⁷¹ and Pajhwok News¹⁷² reported that the Taliban fired on a crowd celebrating Afghan Independence Day in Jalalabad. Reports indicated 3 people were killed and 10 wounded¹⁷³. The crowd were reported to be flying the internationally-recognised flag of Afghanistan in defiance of the Taliban. There were reports of similar protests elsewhere, including Khost and Kunar¹⁷⁴ ¹⁷⁵.

5.10.4 On 18 August 2021, The Guardian reported that the Taliban’s ‘... talk of moderation and peace was punctured by allegations of women and children being beaten and whipped by Taliban fighters as they tried to reach Kabul airport, protesters in several cities being beaten and shot dead, and the statue of an enemy figure being blown up.’¹⁷⁶

5.10.5 On 19 August 2021, The Washington Post reported that Afghan citizens continued to protest against the Taliban rule, ‘...Afghan protesters defied the Taliban for a second day Thursday, waving their national flag in scattered demonstrations, and the fighters again responded violently as they faced down growing challenges to their rule.’ ¹⁷

...

イ ●DIS「アフガニスタン：治安状況の最近の変化、民間人や標的にされた個人への影響」（2021 年 9 月）

Members of ANDSF and pro-government militias

Taliban’s Code of Conduct, the Layha, grants permission to members of the Taliban to execute members of ANDSF should they not wish to surrender.¹³⁸ In the wake of their recent offensive, HRW have reported that Taliban have committed summary executions of active and retired ANDSF members as well as current and former members of the Afghan police forces.¹³⁹

SER advised that members of ANDSF and former police forces constitute the most vulnerable amongst the targeted individuals in Afghanistan because they have been directly involved in combat against the Taliban.¹⁴⁰

According to Martine van Bijlert of the AAN, surrendering members of ANDSF across the country have not received the same treatment by the Taliban. In some places like Herat, Kunar and Kunduz, surrendering ANDSF troops were allowed to leave the city in vehicles, whereas surrendering ANDSF troops were taken into Taliban custody in Uruzgan and Logar.¹⁴¹ SER stated that disserting ANDSF troops in some areas have been paid a month's salary by the Taliban in order to persuade other troops to surrender.¹⁴²

Since their conquest, there have been reports of the Taliban searching for Afghan special operations forces personnel and commandos of the intelligence service, as well as police and security chiefs across the country. According to The New York Times, however, there have been discussions amongst the Taliban leadership whether to grant amnesty to some highly trained Afghan operatives.¹⁴³

Recent incidents of targeted attacks against members of ANDSF include:

- 16 June: The Taliban summarily executes 22 members of Afghan Special Forces unit in connection with a military operation in Faryab province.¹⁴⁴
- 9 July: The Taliban kills a former police worker in Kandahar province.¹⁴⁵
- 27 August: The former security police chief in Farah, Ghulam Sakhi Akbari, was fatally shot on the main Kabul-Kandahar highway.¹⁴⁶

ウ 米国国務省「[人権報告 2016 年-アフガニスタン](#)」(2017 年 3 月 3 日)

一部の地域ではタリバンがイスラム法の厳格な解釈に基づいて、並列的司法制度を執行した。処罰には処刑又は身体切除が含まれる場合もあった。例えば、(2016 年) 8 月、カピサ (Kapisa) 州でタリバンが 20 歳の学生 1 名をスパイ活動を理由に告発して誘拐し、1 週間後に殺害した。UNAMA の報告によると、死刑判決、鞭打ち、及び殴打の結果、(2016 年) 前半だけで 29 名の民間人が犠牲となり (死亡者 24 名と負傷者 5 名)、これは前年同時期と比べ 28 パーセントの増加であった。

(3) 地域別の活動状況

① Parwan 州 Ghorband 郡

ア EASO「[EASO 出身国情報レポート: アフガニスタン治安状況 - 更新](#)」(2018 年 5 月)

例えば、報道によると、2017 年 10 月に多くの国内避難民がパルワンにあるシアギルド地方やゴーバンド地方からカブールへと到着した。また、2017 年 11 月には、別の集団がカピサで行われた伝えられている軍事作戦からカブールへと逃れた。…

2.28 パルワン州

2.28.1 紛争における当時者パルワン州の反政府集団であるタリバン過激派勢力は、パルワン州の遠く離れた地域で活動する。2017 年 11 月には、シアギルド・ゴーバンドとシンワリは最も攻撃されやすい地域とされた。2017 年 8 月 23 日から 11 月 21 日に実施された調査に基づく 2018 年 1 月の BBC の調査報告書によると、タリバンはゴーバンド 地域において、平均的な割合で積極的に活動（1 ヶ月に少なくとも 3 回の攻撃を行う）を行なっている。さらに、彼らには、シンワリ、サラン、Jabalussaraj、バグラムそして Koh-e Safi のように、「低頻度活動地域」（3 ヶ月に少なくとも 1 回攻撃を行う）もある。

...

情報漏えい、民間死傷者、紛争に基づく強制移動の 3 つの指標に基づく 2017 年の紛争の過酷さを表した地図によると、UNOCHA はシアギルド・ゴーバンドの地域を 2 番目に位置付け、シンワリとバグラムを中間に位置付けた。その他の地域については最下位の分類に入れた。

...

2017 年 9 月末、タリバンはシアギルド・ゴーバンド地域の治安部隊の拠点に対して、計画的な攻撃を行い、そのうちのいくつかを制圧した。領域内でのその後続く攻撃は数日間にも及び、数千人もの民間人が強制移動を強いられた。いくつかの報告書によると、タリバンによる砲撃によって女の子 2 名を含む 7 名が殺害され、さらに 7 名が怪我を負った。地元の情報によると、タリバンはその他にも住民に対する拷問や住居の略奪を行った。

...

強制移動

UNOCHA は、2017 年 1 月 1 日から 2018 年 3 月 26 日にかけて、パルワン州から強制移動させられた 6632 名に関する情報収集を行なった。（うち、6531 名がシアギルド・ゴーバンド、101 名がシンワリから）

UNOCHA は、2017 年 9 月に行われたシンワリとシアギルド・ゴーバンドでの激しい衝突によって、1,750 人が同じ地域内の他の村々へと強制移動させられたと報告した。副知事が人道的活動家たちに対して行なった報告によると、紛争は 2017 年 9 月末にシアギルド・ゴーバンドで、武装勢力対 ANSF 間で起きた。その地域に住む 1500 人から 2000 人のうち 95%の人々がチャリカールやバグラムに強制移動させられ、多くの人々はカブールへと移ったと報告されている。ある当局者は、死者や家屋の崩壊なども報告されていると述べた。2018 年 3 月にパルワン DoRR は、チャリカール、Jabalussaraj、バグラムの地域へ、Samangan やゴーバンド溪谷等のその他危険地域から 350 家族が移動してきたと述べた。

イ EASO「[EASO 出身国情報レポート:アフガニスタン治安状況](#)」(2017 年 12 月)

シンワリ地区には、大多数のパシュトゥーン人がおり、Koh-e Safi 同様、ゴーバ

ンドは多大なパシュトゥーン人口を誇る。パルワン州には、クーチーや遊牧民等の人口があるが、その数は季節により変動する。ハザラ人と少数派のトルク人は Shekhali や Surkh-e Parsa 地区に居住する。Surkh-e Parsa地区にはスンニ派ハザラ族が居住しており、アナリスト Thomas Ruttig の話によると、伝統的にバーミヤーン州のシーア派ハザラ族とは対立関係にあり、それゆえにイスラム党については支持していた。州を横断するのは、カブールと Pul-e Khumri やその他の北部州都をつなぐハイウェイ 1 号線である。チャリカールからバーミヤーンまでの主要アクセス道路である Ghandak ハイウェイは、シバルを横切って、ゴーバンド渓谷を通る。

パルワンにおける紛争や当事者らの背景情報

In Bagram there is an important military airfield which once was the largest American military base in the country where at its peak 40,000 military personnel and civilian contractors lived. The base also houses the Bagram detention centre (1938), previously run by the US but handed over to the Afghan government by March 2013 (1939). Bagram air base still is the biggest US military air base in Afghanistan (1940). Thomas Ruttig of AAN reported in 2011 that Pashtuns in Ghorband have traditionally been pro-Hezb-e Islami but the Taliban has been able to absorb some of its structures during their regime. Local Taliban networks have been reactivated and a provincial shadow administration has been set up (1941). In 2014, Landinfo noted that the insurgent groups active in the province included the Taliban, Hezb-e Islami, IMU and Al Qaeda (1942). According to a representative of an international organization based in Afghanistan:

「州内のタリバンは地元民により構成されている。山あい広がるゴーバンド渓谷のうち、シンワリはパシュトゥーン人のみに支配された地区である一方で、シアギルド（ゴーバンド）はパシュトゥーン人もタジク人もいる地区である。Koh-e-Safi 地区は、パシュトゥーン人（主にサフィ人）が人口の多く占める地方の東部に位置する。反乱軍の存在は複数の要因に起因しているといえる；一つ目の要因は、ジャミアテ系タジク人(Jamiat-affiliated Tajiks)により占領された地方政府のコミュニティから疎外されたためという見方である。そして、これにより元 HIG（イスラム党・グルブッディーン）指揮官はタリバンと同盟関係を持つこととなった。二つ目の要因は、政界の黒幕たちの目的達成のために過去数十年の間に深まった、未だ解決していない苦情や政治的分離である。さらには、さらなる要因が地方の山あい部における貧困とそこに根強く残る疎外である。」

2015 年 9 月には、隣接地のバグラーンからパルワンの一部地域であるシンワリ、ゴーバンド、Koh-e Safi への IS による侵略等の活動があったと報告された。一方で、いくつかの地元反政府勢力(AGEs)による抵抗もあったと報告されている。2016 年 4 月には、ゴーバンド渓谷で約 300 もの反政府組織(AGEs)の活動があったと推定されている。

...

Pajhwok Afghan News によると、2017 年 1 月、2 月、3 月の間にパルワン州から

暴行、危険、攻撃等があったとの報告はなされていない。2017 年 7 月に UNAMA は、本州内で主に標的型・計画的な殺害や地上での交戦、即時爆発装置（IED）によって 40 名の民間人（13 名が死亡、27 名が負傷）が被害を受けたとしている。IWPR は 2017 年 1 月に、複数のパルワン地方の市民が反乱勢力による報復攻撃の被害にあったとことを報告した。これにより、一部は住居を強制退去させられ、その他は殺害された。

...

Pajhwok Afghan News とタリバンのウェブサイトによると、2017 年夏、パルワン・バーミヤーン・ハイウェイはシアギルド地区での反乱軍と治安部隊との武力衝突や反乱軍による妨害（Jabalalsaraj、シンワリ地区）のために時折閉鎖されていた。

...

パルワンにおける紛争と当事者らの背景

...

ANN の Thomas Ruttig は 2011 年に、ゴーバンドに住むパシュトゥーン人は伝統的にイスラム党支持者であったが、タリバンは政権時代にその体勢を受け入れることができた。地元タリバンのネットワークは復活され、州における影の政権が確立されたと報告した。2014 年の Landinfo は、州内で活動する反政府グループには、タリバン、イスラム党、IMU、アル・カイダが含まれていると記している。アフガニスタンを拠点とする国際機関の代表の話によると；

「州内のタリバンは地元民により構成されている。山あい広がるゴーバンド渓谷のうち、シンワリはパシュトゥーン人のみに支配された地区である一方で、シアギルド（ゴーバンド）はパシュトゥーン人もタジク人もいる地区である。Koh-e-Safi 地区は、パシュトゥーン人（主にサフィ人）が人口の多く占める地方の東部に位置する。反乱軍の存在は複数の要因に起因しているといえる；一つ目の要因は、ジャミアテ系タジク人(Jamiat-affiliated Tajiks)により占領された地方政府のコミュニティから疎外されたためという見方である。そして、これにより元 HIG（イスラム党・グループデューン）指揮官はタリバンと同盟関係を持つこととなった。二つ目の要因は、政界の黒幕たちの目的達成のために過去数十年の間に深まった、未だ解決していない苦情や政治的分離である。さらには、さらなる要因が地方の山あい部における貧困とそこに根強く残る疎外である。

ウ 記事「[The ‘Humvee Bomb’ Series: The October wave of Taliban attacks in 2017 context](#)」Afghanistan Analysis Network（2017 年 11 月 7 日）

カブール州に隣接するパルワン州では、タリバンがシアギルド地区中央を二度攻撃した。一度目は、8 月に起き、散発的な交戦は一ヶ月にわたって続いた。9 月下旬に起きた二度目の攻撃の間、タリバンは 3 つの州から戦闘員を動員し、パルワンのゴーバンドのはずれの Fandugistan valley（AAN の当初の分析）に向けて、再びシアギルドから侵攻を始めた。彼らを押し返すのに、3 日に及ぶ戦い

と政府からの増援部隊が費やされた。不定期的な衝突は9月下旬同様、10月にかけても継続的に報告され、当該地区が未だタリバン支配化に陥る可能性を示唆した。一方で、近郊のバーミヤンのシバル地区でもタリバンによる攻撃が報告されたが、この地方で起きる出来事としては珍しいものであった。これが政府の増援部隊の経路（バーミアンを起点とする）の一つを切断することを目的としたタリバンのシアギルドにおける活動であることは明らかであった。

4. ジェンダー、DV および子ども

(1) 女性全般

ア ●英国内務省「[国別政策及び情報ノート アフガニスタン：タリバンの恐怖、1.0 版](#)」（2021 年 10 月）

5.3.3 According to Atalayar, a Spanish news outlet reporting on 24 June 2021, ‘Within the translators, women face an even greater risk compared to their male counterparts. As Julie Kornfeld, an asylum lawyer, explains, “while Afghans linked to the US are at great risk of retaliation from the Taliban and other militias, women in particular face constant threats, not only for having worked with the US, but also for working in positions that the Taliban deem unsuitable for women”.’ 96 (See also: Women)

※ 前掲

5.5 Women

...

5.5.3 On 3 August 2021, The National, a UAE-based news source reporting on issues in the Middle East, reported that:

‘... In the days after the Taliban arrived in her village [Mazar-e-sharif], the militant group started imposing draconian rules, particularly ones that restrict women’s freedom.

“They announced that the women would not be allowed outside without a chadari,” she said, referring to a full face veil. “Soon after, they closed the girls’ school,” Gulpari told The National, adjusting her traditional blue burqa to cover most of her face while she spoke.

‘... “Most of the clinic and medical facilities were also shut and women were forbidden from visiting even the female doctors and midwives, unless they were accompanied by a mahram,” she said, referring to a male escort, which the Taliban strictly insists upon for all women.’ 116

5.5.4 The article continued, with reference to forced marriages by the Taliban:

“A statement bearing the militant group’s insignia was shared widely on social media, calling for religious leaders in the captured districts in Badakhshan and Takhar to refer girls older than 15 and widows younger than 45 to the “Mujahideen Cultural

Commission”.

““These sisters will be married to the [Taliban fighters] and taken to Waziristan [in Pakistan] to be returned to Islam”, implying that women would be forced to adhere to the insurgents' religious edicts.

“While Taliban members have denied accusations of forced marriage, calling them “baseless” and “propaganda”, women activists across the country are reporting such stories.

““Women are being married off as sexual slaves – this would be the term I would use,” said Pashtana Durrani, an education activist from Kandahar province in the south, where she has encountered similar cases.’¹¹⁷

...

5.5.6 The author of the BBC article continued, that, despite these assurances: ‘...I've been told taxi drivers have been given instructions not to drive any woman into the town unless she's fully veiled. The day after we leave, reports emerge of a young woman being murdered because of her clothing. Haji Hekmat, though, rejects allegations Taliban members were responsible.’¹¹⁹

...

5.5.8 Despite the positive assurances by the Taliban, there are a small number of unverified reports that the Taliban continue to target women in Afghanistan. In an interview facilitated by BBC Woman's Hour, Homira Rezai, an Afghanborn activist, detailed how contacts in Afghanistan are reporting that the Taliban have already begun targeting women in Kabul who had enjoyed more freedoms under the Afghan government, such as bloggers and activists, stating ‘They're going door to door, marking the doors with bright pink or bright-coloured paint to ensure that, “this is the house that we need to come back to and to do something about them.”’¹²¹

...

5.9 Transgressors of religious, cultural and social norms

...

5.9.5 The USSD HR Report 2020 noted, ‘Women in some areas of the country said their freedom of expression in choice of attire was limited by conservative social mores and sometimes enforced by Taliban in insurgentcontrolled areas as well as religious leaders.’¹⁵⁸

イ ●DIS [「アフガニスタン：治安状況の最近の変化、民間人や標的にされた個人への影響」](#) (2021 年 9 月)

要約

...

The treatment of women has also been affected by the Taliban's conquest of the country. In some parts of the country, girls have been denied access to attending school and women have been barred from their work outside of the home as well as from leaving the house without a male companion (mahram). In other parts of Afghanistan, women have continued to work outside of the home and leave the house on their own, albeit with more constraints than before the Taliban takeover.

...

Women

In their 2021 midyear report on civilian casualties in Afghanistan, UNAMA registered an 82 % increase in the number of women casualties in Afghanistan compared to the first six months of 2020.¹⁰⁴ Targeted killings of women amounted to 9 % of the recorded casualties, including targeting of men where women were incidentally impacted. Women appeared to have been the main target in 18 of the incidents, resulting in four women killed and 25 women injured. According to UNAMA, the women were targeted either due to their professional affiliation, because they were accused of supporting the former government or ANDSF, spying for ANDSF, or because they were accused by the Taliban of 'immoral conduct' such as adultery.¹⁰⁵

...

There have been reports of the Taliban imposing strict rules regarding women in newly captured districts across the country.¹¹⁰ In Balkh province, the Taliban have distributed leaflets among the local population, declaring that women cannot leave their home without a male companion (mahram) nor without wearing a hijab.¹¹¹ Similar reports have come out of Faryab and Jawzjan provinces.¹¹² There have also been reports of women being forced to marry Taliban fighters prior to the conquest of Kabul.¹¹³ The well-informed journalist interviewed for this report stated that in some cases these women have been under-age but he has not been able to verify these pieces of information.

In Kandahar City, there have been reports of Taliban forcing women away from their jobs in a local bank, and in Herat women have been denied access to attend schools and to work apart from domestic work in their home.¹¹⁴ On the other hand, women in Logar province have been able to visit the local bazar without a male companion, albeit in a burka.¹¹⁵

Despite these incidents, the Taliban leadership have stated that women constitute an important part of Afghan society going forward, and that they will be allowed to attend schools and work in accordance with Islamic rules.¹¹⁶ However, The Taliban leadership have been vague as to how they interpret in accordance with Islamic rules.¹¹⁷ As such, the situation for women in Afghanistan remains uncertain, according to SER.¹¹⁸

...

ウ **UNHCR「アフガニスタン出身の庇護希望者の国際保護の必要性評価に向けたUNHCRの見解」**（2018 年 8 月 30 日）（更新前）

7. 特定の経歴を有する女性または特定の状況下にある女性 428

...

全体として、女性および少女の状況の改善は周縁的なものに留まったままだと報告される 436。アジア財団によれば、「教育・医療に対するアクセスの限定、移動の自由の制限、『道徳犯罪』に対する不公正な刑罰、行政への参加の不平等、強制結婚および暴力」は依然としてアフガニスタンの女性と少女にとって大きな課題のままである 437。報告によれば、家庭内暴力その他の人権侵害を理由とするうつ病がアフガニスタン女性の間で増加しつつあり 438、アフガニスタンにおける自殺者の 80 パーセントは女性であり、他に焼身自殺を図る女性もいる 439。

AIHRC は、女性に対する暴力は依然として「広範に行われている、一般的かつ否定できない現実 440」であり、アフガニスタンの治安の悪い州および農村部の女性が暴力・虐待の被害を特に受けやすい 441 と指摘している。報告によれば、このような暴力が処罰されないことは一般的である 442。女性に対するセクシュアル・ハラスメントおよび深く根付いた差別も依然として同国特有のものであると報告される 443。

...

このセクションで明らかにされる人権上の懸念はアフガニスタン全域の女性および少女に影響を与えているものだが、AGEs の実効支配下にある地域の状況は特段の懸念の対象であると報告される 455。AGEs は、その支配にある地域で、移動の自由、政治参加、医療へのアクセスおよび教育へのアクセスを含む女性の基本的権利を厳しく制限し続けているとされる 456。さらに、AGEs の実効支配下にある地域では、女性が自己の権利侵害について司法にアクセスし、かつ効果的な救済を得ようとするにあたって特別な困難に直面する可能性が高い。報告によれば、AGEs がその支配下にある地域で運営している並列的な司法構造は恒常的に女性の権利を侵害している 457。

a) 性およびジェンダーに基づく暴力

アフガニスタンでは、女性に対する性およびジェンダーに基づく暴力が依然として広がっている。報告件数は増加しているが、実際のケース数は報告件数よりもはるかに多いと考えられる 458。2018 年 3 月、AIHRC は女性に対する暴力を「アフガニスタンにおける最も深刻な人権上の課題の一つ」と呼んだ 459。このような暴力には、「名誉殺人 460」、誘拐、強姦、セクシュアル・ハラスメント、強制堕胎および家庭内暴力などが含まれる 461。

...

エ 英国内務省「[国別政策情報ノート アフガニスタン：ジェンダーを理由とした暴力を恐れる女性、3.0 版](#)」（2020 年 3 月）

a 国家による取り扱い

2.4.1 アフガニスタンには、女性の権利を保護することを目的とした、いくつかの法令や政策がある。しかし、実際には、法律が必ずしも実施されたり、執行されたりしているわけではない。女性は、家族法や雇用、教育、保健サービス、司法制度へのアクセスにおいて差別に直面している（「法的背景」、「女性に対する暴力に関する法的アプローチと実施」、「司法へのアクセス」、「社会的、経済的、政治的権利と意識」を参照）。

2.4.2 暴力から逃れようとする女性で、特に農村部においては、家からの「逃亡」を含む「道徳的犯罪」や不貞を犯したこと（ジーナ（姦通罪））で逮捕・起訴されることがある。そのような女性は、強制的に処女検査を受けることがある（「女性に対する暴力に関する法的アプローチと実施」、「司法へのアクセス」、「性的およびジェンダーに基づく暴力」の「概要」及び「処女検査」を参照）。

...

b. 社会的な取り扱い

2.4.4 女性の社会的地位は、教育、地域文化、経済、地理、民族、宗教によって異なる。カブールのような都市部の女性の多くは、タリバン追放以来、可視化され、教育や仕事にアクセスしやすくなり、例えば、カブールでは何万人もの女性が家の外で働くようになった。しかし、アフガニスタンは依然として家父長制かつ保守的な社会であり、特に女性のほとんどが暮らす農村部のコミュニティでは、ジェンダーの役割についての考え方が根強く残っている。女性は通常、父親や後には夫の所有物とみなされ、従うことが期待されている。同伴者のいない女性は、特に農村部では、嫌がらせや虐待（強引なものを含む）を受けずに、家の外を簡単に歩いたり、出たりすることはできない。教育を受けた女性は、経済的に自立し一人暮らしすることを望んだという理由で、保守的な家族や強硬派のイスラム教徒から敵対視されることがある（「文化的背景：差別と不平等」、「経済参加」を参照）。

オ DFAT「[出身国情報報告 アフガニスタン](#)」（2019 年 6 月 27 日）

3.50 タリバン崩壊以降、アフガニスタンでは、著名な女性の市民社会の代表者を含め、女性の権利擁護者の出現が遅れている。女性のためのサービスや女性の保護施設は、徐々に国内に広がってきた。しかし、アフガニスタンの農村部の保守的な文化の中では、これらは時々疑念を持って見られてしまう。特にタリバンは長い間この傾向を嫌っており、女性の権利擁護者や非政府・非営利組織の女性スタッフを直接標的にしてきた。国連アフガニスタン支援ミッション（UNAMA）は以前、非政府・非営利組織の女性スタッフや女性の権利擁護に関わる人々が特

にリスクに直面していると報告した。UNAMA は、その 2016 年の年次報告書において、その年に反政府分子による女性の民間人を標的また意図した殺害事件 54 件を記録しており、それは 2015 年と比較して 25%増加している。豪外務貿易省はこのリスクは依然として重大である可能性が高いと評価している。

●DFAT「出身国情報報告 アフガニスタン」(2017 年 9 月 18 日) ※前訂版

3.39 Since the fall of the Taliban, Afghanistan has seen a slow emergence of women's rights advocates, including high-profile female civil society representatives. Women's services and protection shelters have gradually spread across the country. However, these are sometimes viewed with suspicion within the conservative culture of rural Afghanistan. The Taliban in particular have long been averse to this trend and have directly targeted women's rights advocates and female CSO/NGO workers.

3.40 Anti-government elements have also targeted women active in public life and women employed in non-traditional sectors such as policing and security, limiting their ability to participate in these areas for fear of reprisal. For example, in December 2016, anti-government elements killed five female employees of a private security company in Kandahar city. While the precise circumstances remain unclear, UNAMA reported that the women appeared to be targeted simply because they worked outside their homes.

カ 米国国務省「[人権報告 2016 年-アフガニスタン](#)」(2017 年 3 月 3 日)

タリバン及び他の反乱者集団による拷問及び他の虐待の報告が多数あった。(2016 年) 3 月のアフガニスタン独立人権委員会 (AIHRC : Afghan Independent Human Rights Commission) の報告によると、タリバンがジョズジャン州で女性 1 名を、彼女の夫と夫の家族が彼女を 婚外関係を持ったことを理由に告発した後、姦通罪を理由に殺害した。治安上の懸念を背景に、AIHRC と政府はいずれもこの事件を捜査することができなかった。(2016 年) 5 月、ジョズジャン州で女性 1 名が非公式のタリバン裁判所で裁判を受けた後、背後から頭部を 銃撃され殺害された様子を撮影したビデオが、ソーシャルメディアに投稿された。

...

当局は一部の女性を犯罪の被害を受けたことの通報を理由に投獄し、またある犯罪で有罪判決を受けた夫又は身内の男性の代理として、容疑者が家族を自由の身にするために自主 してくるであろうという想定に基づいて拘留した。

当局は一部の女性を家族による暴力から保護するため、保護拘留状態に置いた。当局はドメスティック・バイオレンスを経験した女性を、さらなる虐待から保護するために利用可能な避難所がない場合も、保護拘留を採用した (拘留施設での収容を含む)。女性に対する 暴力の廃絶 (EVAW : Elimination of Violence Against Women) に関する大統領令 (一般に略 して EVAW と呼ばれる) では警察に対し、女性を虐待した者を逮捕するよう義務付けている。しかし、EVAW の施行と意識は限ら

れていた。

キ [EASO「COI レポート：アフガニスタン 紛争下において武装主体の標的にされる者」reliefweb](#) (2017 年 12 月)

1.5.1.2 イスラム国ホラサン州 (ISKP) 地域の女性たち

CIVIC がインタビューした女性たちによると、ナンガルハールのイスラム国ホラサン州 (ISKP) の支配下にある地域では、女性は、農場で働くことを含め、公の場での生活を完全に禁止されており、農村部で農作業の多くを担っているかなりの数の女性に影響を与えている。また、女性が「公共の場で不必要に歩いたために殴られたり、撃たれたりした」と報告されている⁶⁰¹。

(2) ハザラ人女性

ア [DFAT「出身国情報報告 アフガニスタン」](#) (2019 年 6 月 27 日)

教育

...

2.40 ハザラ人は伝統的に教育の到達度に重きを置いてきた。それは女子たちにとっては、アフガニスタンでの社会的疎外から脱却する手段となる（「女性」を参照）。信憑性の高い統計はないが、信用するに足る情報によると、ハザラの子どもはアフガニスタンの他の民族の子どもに比べて極めて高い割合で正式な教育を受けている。ハザラの子どもは一般的に、家庭の事情が許すのであれば、より高い教育を受けるよう後押しされる。現在、バーミヤン州とダイクンディ州には 350 校以上の学校が開校しているが、およそ 16 万人の生徒のうちその約半数が女子である。バーミヤン州にはまた小規模な大学があり約 3,600 人の生徒がいるが、資格を持つ講師陣の獲得に難航している。ハザラ人はさらにカブールでも、自らのコミュニティのために複数の私立学校を運営している。学校の質はアフガニスタンにあるその他の多くの学校よりも高い傾向にあり、ハザラ人の比較的高い大学合格率からもそのことが言える。ハザラジャートには、冬の時期にも子どもに教育を受けさせるためカブールの学校に通わせる家族もいるという。

3.63 Hazara girls are far more likely to be able to access education than girls of other ethnicities (see Education), and Hazara women and girls are far more likely to be able to participate in sport, the community, and the workforce than women and girls of other ethnicities. Because of their educational qualifications and the support of their community, Hazara women are more likely than women of other ethnicities to be able to pursue employment opportunities with the international community, or with the government, police and army. The current governor of Daykundi province is a Hazara woman, and Bamiyan has previously had a female Hazara governor. The Independent

Election Commission also includes a female Hazara commissioner. Despite their relatively strong position within their own community, however, Hazara women – like all women in Afghanistan – experience high levels of societal discrimination and gender-based violence, including sexual assault and domestic violence. Hazara women and girls living outside the Hazarajat are subject to the same societal restrictions as other Afghan women. All Afghan girls attending school face a risk of violent attack, although this risk is likely to be lower for Hazara girls attending schools in the Hazarajat.

●DFAT「[出身国情報報告 アフガニスタンのハザラ人](#)」(2017 年 9 月 18 日)
※前訂版

3.14 Hazaras are regarded as progressive by Afghan standards in relation to women's rights. As noted in 'Education', Hazara girls are far more likely to be able to access education than girls are of other ethnicities. Hazara women and girls are also far more likely to be able to participate in sport and the workforce than women and girls of other ethnicities. Because of their educational qualifications and the support of their community, Hazara women are particularly likely to be able to pursue employment opportunities with the international community, or with the government, police and army (see 'People associated with the government or the international community'). The current governor of Daykundi province is a Hazara woman, and Bamiyan has previously had a female Hazara governor. The Independent Election Commission also includes a female Hazara commissioner.

3.15 Despite their relatively strong position within their own community, DFAT assesses that Hazara women– like all women in Afghanistan – experience high levels of societal discrimination and gender-based violence, including sexual assault and domestic violence, irrespective of where they live. Hazara women and girls living outside the Hazarajat are subject to the same societal restrictions as other Afghan women (see 'Women' in the DFAT Country Report on Afghanistan, released 18 September 2017). All Afghan girls attending school face a risk of violent attack, although this risk is likely to be lower for Hazara girls attending schools in the Hazarajat.

(3) 女性の社会進出&女性教育

ア EASO「[COI クエリー回答 アフガニスタン：教育分野、学校関係者・生徒](#)」
ecoi (2020 年 8 月 20 日)

3. 教育を受けた女性 (2018-2020)

アフガニスタン国立統計・情報機構 (NSIA) によると、2018 年、アフガニスタンには 64,533 人の女性教師と 340 万人の女子生徒がいた。2019 年 9 月、米国国際開発庁 (USAID) は、アフガニスタンでは 350 万人の少女が就学していると報告した。

国連アフガニスタン支援ミッション（UNAMA）は 2020 年 2 月、アフガニスタンでは女子は暴力や政情不安により教育の機会を奪われていると述べた。

アフガニスタンにおける教育の機会の剥奪。同氏によると過去 18 年間、アフガニスタンの 400 ある地域のうち約 150 か所で女性の卒業生はいなかった。2020 年 6 月、ヒューマン・ライツ・ウォッチはヘルマンド州のいくつかの地域（主にタリバンの支配下にある地域）で、実際に開校している女子児童のための小学校は存在しなかったと述べた。

...

米国国務省（USDOS）によると、2019 年、アフガニスタンの女子児童は教育へのアクセスにおいて重大な障壁があった。理由としては、「（特に農村地域における）貧困、早期の強制結婚、政情不安、家族の支援が得られないこと、女性教師の不足および通える範囲に学校がないこと」が挙げられる。⁶

...

アフガニスタン独立人権委員会（AIHRC）はイスラム国ホラサン州（ISKP）とタリバンは女子学校に対する攻撃を継続していると申し添えた。UNAMA は 2018 年 6 月、ISKP がラジオ放送を通して学校を標的にしていること、その中でもとりわけ女子学校を狙っていることを表明したと述べた。⁶⁵

2020 年 3 月、ヒューマン・ライツ・ウォッチは、タリバンが女子学校に対する激しい攻撃を継続しており、男女平等にまだ根強く反対していることを報告した。⁶⁶ 合衆国平和研究所（USIP）とアフガニスタン分析ネットワーク（AAN）によれば、タリバンが掌握した地域ではまず 12 歳以上（6 年生）の少女が学校に行くことを禁止された。しかし、ヘラート州オベ（Obe）地区では、年長者がタリバンと協定を結び、女性教師が教えることを条件に女の子も高校まで通うことができる許可を得た。⁶⁷ ヒューマン・ライツ・ウォッチは、タリバンの役人は学校の門番と清掃員も女性にしなければならないと述べたと伝えた。加えて、ワルダック州ジャルレズ（Jalrez）地区では、タリバンが女子児童にヒジャブを身に着けることを強制した。⁶⁸

...

イ 英国内務省「[国別政策及び情報ノート アフガニスタン：治安・人道状況、7.0 版](#)」（2020 年 5 月）

7.2.2 セドナ（Cedona）は攻撃の対象者を以下のとおり記した：

「…民軍問わず名の通った国際機関（これには、外交官、欧米の NGO を含む）、アフガニスタン当局、機関および治安部隊。人口密度の高い場所で大爆発を起こすことで、当初は政府高官を狙った自爆攻撃であっても、結果としていつも通りの日常を過ごしていただけの市民を巻き込み無差別に死傷者を出すことになる。また、メディアで働く者やジャーナリスト、医療従事者への脅迫や暴力も続いており、そうした攻撃に抗するとまたさらに報復を受けるという傾向があることがいくつか

の調査で判明した。…アナリストのトーマス・ルッティ (Ruttig) によると、その他、カブールで反乱軍の標的となっているのは、政府やモスク、牧師と関係がある宗教指導者や部族指導者、女性の権利活動家である。」⁵⁰

英国内務省「[国別政策及び情報ノート アフガニスタン：治安情勢及び人道的状況、4.0 版（仮訳）](#)」（2017 年 8 月） ※前訂版

7.4.2 また、UNAMA は、AGE による女性を対象にした標的及び故意殺人事件が 2016 年には、2015 年と比較して 25%増加し、54 件を記録したと報告した。UNAMA によると、「反政府分子は女性の人権擁護活動家、公人としての生活が活発な女性及び警察や治安部隊など非伝統的なセクターで雇用されている女性を標的にした…」一部の女性には、家庭外で働いているという理由だけで標的にされたと伝えられている 29。

ウ DFAT「[出身国情報報告 アフガニスタンのハズラ人](#)」（2017 年 9 月 18 日）

2.20 2016 年、UNAMA は 94 件の教育や教育に関わる者を標的にした又は影響を与えた紛争関連の事件事案について報告書にまとめ、24 名の死者と 67 名の負傷者がいたことを報告した。この数字は 2015 年と比べると 20%減少した。ほとんどの事案で、脅迫や嫌がらせがあった。

反政府勢力は相変わらず女子の教育に反対しており、学校に通っている女子児童や彼らの教師を脅迫している。2016 年に UNAMA がまとめたところによると、女子学校の校長の誘拐や女子学校の教師に対する銃撃、女子学校を狙った多数の破壊攻撃があった。

3.16 アフガニスタンにおけるハズラ人の全体的な状況は 2001 年のタリバン撤退以降、劇的に改善されている。そのため、大多数のアフガニスタン人がハズラ人は政府とつながっていると考えている。「経済状況 - カブール」によると、多くのハズラ人が政府や国際社会で職を得ている。これは特にハズラの女性にあてはまり、通常女性が職に就くことが難しい警察や軍の採用において、驚くような割合を占めていると言われている。加えて、アフガニスタン国外にも大きなハズラ人コミュニティがあるということは、彼らが他のアフガニスタン人よりも国際的なコネクションを多く持っていることを示唆している。

3.17 2017 年 9 月 18 日の DFAT アフガニスタン出身国情報報告に記されているとおり、反乱勢力やテロリストグループは明らかに政府や国際社会で働いている者や、支援している者、または協力関係にある者を標的にしている。このような人々はたいてい脅迫や恐喝、誘拐や殺人の被害に遭っている。こうした攻撃はアフガニスタン全土で起こっており、ハズラ人もその標的となっている。2016 年 6 月、バーミヤン州サイガン (Sayghan) 地区で郡司が銃殺された事件では、タ

リバンが犯行声明を出した。

3.18 DFAT は、ハザラ人で就労やパブリックステートメント、その他の手段で、公然と政府や国際社会との関係を有している者は、反政府勢力から狙われる危険性が高いと考える。しかし、そのリスクは同じ状況にある他の民族の者にも当てはまる。DFAT は国際社会とのつながりがあるハザラ人であっても、そのつながりを公に強調していないのであれば、暴力にさらされる危険性は低いと考える。これは、欧米に住んでいたことがあるハザラ人にも言えることである。

エ 国連人権理事会「[女性に対する暴力、その原因および結果に関する国連特別報告者報告 ラシーダ・マンジョー](#)」(2015 年 5 月 12 日)

B. コミュニティにおける女性への暴力

...

21. 国連特別報告者は知名度の高い女性、特にパブリックセクターで働いている者を狙った攻撃が激化していることを憂慮している。例えば、2015 年 2 月、元ジャーナリストでナンガルハール州地方議会議員がジャララバードの爆発で負傷し、一週間後に死亡した。2014 年 11 月には、国会議員が自爆攻撃で狙われ、3 名が亡くなった。
22. 2014 年初め、別の国会議員が事務所を出たところを襲われ負傷した。同じく国会議員の姉(妹)と著名な女性権利活動家も 2010 年に襲われた。2013 年には上院議員の女性が乗用車を襲撃され娘を亡くし、別の国会議員は誘拐され数週間拘束された後解放された。2013 年 7 月、ヘルマンド州の最高位の女性警察官が仕事に向かう途中銃で撃たれ死亡した。2012 年 7 月、東部のラグマーン州の女性部門のトップが職場を出たところで自動車爆弾により死亡した。2012 年 12 月には殺し屋が彼女の後任も殺害した。こうした例はパブリックセクターで働いている女性が標的にされるという体系的なパターンがあることを示している。これらの襲撃は罪に問われず、しばしばそのような職に就きたいと願う女性への警告として利用されている。

オ ジェトロ・アジア経済研究所／登利谷正人「[ターリバーンと IS の攻勢拡大により治安が急速に悪化：2015 年のアフガニスタン](#)」『アジア動向年報 2016 年版』(2016 年)

女性の社会進出と諸問題

ガニー大統領は政府要職への女性の積極的登用を促した。女性問題担当相、労働・社会問題・殉教者・障害者相、薬物対策相、高等教育相の 4 人の女性閣僚が議会により信任され、ゴール州とダーイクンディ州の州知事や大使などにも女性を起用した。さらに、最高裁判所判事も女性を指名したが、これは 7 月 4 日の議会採決にて否決されている。10 月 25 日には『女性と公共政策』誌が創刊され、11 月 5 日にはサキナ・アイユービーが「ターリバーン政権」期の女性への教育活動によ

って第 7 回国際教育サミットで受賞するなど、女性の政治への積極的な関与や社会進出を促す社会的風土も醸成されつつあると考えられる。

しかし、その一方で女性に対する扱いが問題視される事件も多数発生した。3 月 19 日にカーブルで 27 歳の女性ファルホンダがクルアーン（コーラン）を焚書したという流言によって群衆にリンチで殺害され遺体が放火された。この事件はその残虐性からアフガニスタン社会における女性の地位について再考を迫る事件となり、5 月 2 日のカーブル地方裁判所における初公判はテレビで生中継されるほどの注目を集めた。さらに、11 月 3 日にはゴール州において強制結婚から逃れようとした 19 歳の少女がターリバーンによって石打刑で殺害されるという事件も発生している。このような女性に対する不当な扱いに対し、さまざまな手段で抗議の意を示して社会改革を促そうとする女性たちは確実に増えている。

カ ジェトロ・アジア経済研究所／登利谷正人「[ターリバーン指導者殺害と先行きの見えない平和の行方：2016 年のアフガニスタン](#)」『アジア動向年報 2017 年版』（2017 年）

困難な課題に直面するなか、2016 年 1 月 20 日にルーラ・ガニー大統領夫人が言及し、5 月 31 日に設立された女子大学を始めとする女性教育機関の設立の動きは画期的といえよう。男女共学の教育に根強い拒否感が残るアフガニスタンにおいて、寮なども含めた複合型女性教育機関の設立は今後の女性教育推進に向けた大きな一歩であるといえる。

《参考》 出入国在留管理庁「[難民と認定した事例等について](#)」（令和元年における難民認定者数等について）（2020 年 3 月 27 日）

【事例 1】（判断のポイント）

出身国情報によれば、本国では、主要な反政府勢力である A をはじめとする勢力が各地で攻撃を繰り返しており、厳しい治安情勢が続いていることが認められる。また、A は、政府や市民社会において公的な立場にある女性を社会規範に背く存在と認識しており、イスラムの教えに背くものとして攻撃対象としていることが認められる。

申請者の申立てや証拠によれば、申請者は、女子高等学校の校長を務めたことや NGO 及び国連組織に所属し、女性の権利を推進する活動を行っていたため、A から複数回にわたり脅迫を受けており、それら活動により夫も A から暴行及び脅迫を受けているのであるから、申請者が A から、反 A ないし反イスラムとみなされ、標的とされたのは明らかであり、上記国情に照らせば、帰国した場合、A から迫害を受けるおそれがあり、また、本国政府による効果的な保護も期待できない状況であると認められる。

《参考》 法務省入国管理局「[難民と認定した事例及びその判断のポイント](#)」
 (平成 28 年における難民認定者数等について) (2017 年 3 月 24 日)

【事例 9】(判断のポイント)

本国情勢に係る客観的情報によれば、教師や女性議員等、公的立場にある女性は、反政府組織や、市民社会の構成員、宗教的権威者、政府当局等により標的とされ、人権侵害や、脅迫等の暴力的な攻撃に晒されている状況があること、また、A が勢力を拡大し、その攻撃による死者数が増加していること、A が、政府に対する全国規模の攻勢を強め、治安回復が困難な状況にあることに加え、A が、親政府的意見を持つ者、女性の人権の擁護者を特に標的にしていることが認められる。

(4) DV、名誉犯罪

ア ●英国内務省「[国別政策情報ノート アフガニスタン：ジェンダーを理由とした暴力を恐れる女性、3.0 版](#)」(2020 年 3 月)

2.4.5 Despite the protections provided for under the Elimination of Violence Against Women (EVAW) law, violence against women, particularly domestic violence, is widespread. Other forms of violence include murder, beating, sexual harassment, rape, mutilation, child and / or forced marriage, giving away girls for dispute resolution (baad), ‘honour’ and ‘moral’ crimes and other harmful practices. Incidents of violence against women are thought to be frequent, but difficult to quantify, and are likely to be significantly underreported. Levels of intimate partner violence are estimated to be over 40%, which is higher than the regional average. A UN report, dated 2010, but still considered valid by the Australian Department for Foreign Affairs and Trade (DFAT), found that nearly 90% of Afghan women had experienced physical, sexual or psychological violence in their lifetime. According to the head of the Afghanistan Independent Human Rights Commission, women are more likely to be injured or killed by their own family members than by the ongoing civil conflict. Early and forced marriage is reported to be widespread (see Sexual and gender-based violence, Domestic violence and Early and forced marriage).

2.5.4 In remote areas, where formal justice is weak, prosecutors and judges are often unaware of the EVAW law – which criminalises 22 acts of violence against women – or they are pressured to release defendants due to familial loyalties, threat of harm, bribery, or because some religious leaders declare the law un-Islamic (see Approach to and implementation of laws relating to violence against women and Access to justice).

2.5.5 Police routinely refuse to register cases of violence against women, telling women to return to their husbands. Some women are pressured to drop charges, or to undergo mediation as a tool to resolve disputes, via informal justice systems (Jirgas), which often disregard women’s rights. The police’s lack of investigation, prosecution and punishment

of perpetrators has contributed to the existence of high rates of impunity and the normalisation of violence against women (see Approach to and implementation of laws relating to violence against women and Access to justice).

2.5.6 Shelter space is insufficient. Women in need of shelter, but who could not find it, often ended up in prison, either for their own protection or based on local interpretation of ‘running away’ as a crime. Shelters are also sometimes viewed with suspicion by other Afghans as places of ill-repute (see Women’s shelters and protective custody).

イ ●DFAT [「出身国情報報告 アフガニスタン」](#) (2019 年 6 月 27 日)

3.64 Violence against women, particularly domestic violence, is endemic in Afghanistan. A 2010 survey by UN Women found that nearly 90 per cent of Afghan women had experienced physical, sexual or psychological violence in their lifetime, with 62 per cent experiencing multiple forms. DFAT assesses that the findings of this report remain valid. Violence may take the form of kicking, slapping, and beating with weapons such as wire, sticks, and gun butts. Acid attacks occur frequently, with many attributed to armed groups opposed to girls’ education and others committed by rejected suitors. Most violent attacks go unreported. Women who seek help to escape sexual or physical violence often face indifference or criminal sanctions for committing ‘moral crimes’ such as adultery or running away from home (see also ‘Detention and Prison’). Women who walk outside unaccompanied by a man often experience abuse or harassment, including physical groping, and are likely to be blamed for the assault.

...

3.66 So-called ‘honour killings’ occur frequently in Afghanistan. The AIHRC conducted a National Inquiry on Rape and Honour Killing from 2011-13, and reported in June 2013 that it had recorded 243 cases of honour killing and 163 cases of sexual assault within the two-year study period. A much larger number of cases went unreported and included cases reported as suicide and self-immolation. Under the Penal Code, a man convicted of honour killing after finding his wife committing adultery cannot receive a sentence of more than two years’ imprisonment.

ウ HRW [「『逃げるしかなかった』アフガニスタンにおける『道徳的犯罪』を犯した女性と少女たちの投獄」](#) 米国司法省ウェブ (2012 年 3 月)

ヒューマン・ライツ・ウォッチが多くの人々に聴き取り調査を実施したところによると、差別的な家族法と女性から離婚をすることが難しい状況が、問題のカギとなっている。複数の女性や少女が夫から離婚してもらおうと努力したが無理だと分かり逃げ出している。ジーナ (zina : 姦通) で告発された場合、駆け落ちした相手と結婚したり、夫が、妻が別の男性と結婚する前に口頭で離婚を承諾したという事実から無実となった者もいる。しかし、どちらの場合でも、ジーナの罪から彼女

たちを保護するための婚姻や離婚にかかる書類は不足していた。

...

2011 年に夫の下から逃げ出したアスマは、夫から何度か離婚を言い渡されたと述べたが、それを証明できる書類は何も持っていなかった。元同僚で男性の友人の一人が彼女の逃亡を助けてくれた。彼は彼女の「離婚した」という言葉を信じ、一緒に暮らせるようにするために結婚した。「結婚したくてしたわけではありません。私はただ夫の下から逃げ出したいくて、一人では生きていけないし、他に方法が分からなかったのです。」

しかし、アスマの夫は彼女を見つけ、離婚した事実を否定し、彼女を「逃亡したこと」、ジーナおよび金銭を盗んだ罪で告発した。アスマは逮捕され刑務所に入れられた。ヒューマン・ライツ・ウォッチがアスマにインタビューした際、彼女はすでに数週間刑務所に拘留されていたが、判決は出ていなかった。彼女の 2 番目の夫も逮捕され嫌疑を掛けられている。...

エ ●HRW [「Afghanistan: Surge in Women Jailed for ‘Moral Crimes’」](#) (2013 年 5 月 21 日)

“Running away,” or fleeing home without permission, is not a crime under the Afghan criminal code, but the Afghan Supreme Court has instructed its judges to treat women and girls who flee as criminals. Zina is a crime under Afghan law, punishable by up to 15 years in prison. Some women and girls have been convicted of zina after being raped or forced into prostitution. Prosecution of women who are survivors of gender-based violence has continued, and many abusers of women have continued to go free in spite of Afghanistan’s 2009 Law on the Elimination of Violence Against Women (EVAW Law), which created new criminal penalties for abuse of women.

(5) 単身女性、離婚した女性の状況

① 離婚

ア Landinfo [「報告 アフガニスタン：結婚」](#) 米国司法省 (2011 年 5 月 19 日)

1.9.3 離婚

男性に比べて女性が離婚することははるかに難しいという事情はあるものの、イスラム教の規定に従い、アフガニスタンの法律では離婚が認められている。しかし、離婚は軽蔑される行為である。一般的に、その汚名は女性のほうに重くのしかかってくるが、男性でさえ離婚の結果社会的地位を失うこともある。ハフィーズッラー・エマディ (Hafizullah Emadi) は彼の著書「アフガニスタンの文化と慣習」の中で、「婚姻の終結は、どちらの側からの意思であっても不名誉なことと考えられ、離婚に伴う汚名のことを考えると、婚姻関係を続けることを選ぶ夫婦は少なくなる」と指摘した。(エマディ、2005 年、p. 179)

...

イ OECD「アフガニスタン - 社会制度および男女指数 (2019)」(2018 年 12 月 7 日)

d) 離婚

アフガニスタンでは離婚に関して男性がその権利と権限を持ち (1977 年民法、第 135 条)、理由なく離婚を申し入れることができる。女性は夫が同意した場合または次のような具体的な理由がある場合のみ離婚することができる; 長期の不在の場合; 苦痛を与えられた場合; 夫側の事情で子どもができない場合; 夫が精神病を患っている場合; 妻の生活費を支払えない場合である (2012 年、国連女性差別撤廃委員会シャドーレポート)。その他の方法としては、妻が夫に金銭を支払い、離婚を申し入れ、婚姻を終結することができるコール (Khol) 離婚と呼ばれるものがあるが、妻の申し出を受け入れるか否かは夫側に権限がある。アフガニスタンの女性のほとんどは貧しく経済的に夫に依存しているため、コール離婚は滅多に起きない (国連女性差別撤廃委員会、2011 年)。シーア派の女性はシーア人事法 (Shia Personal Status Law) の下でも同様の制限を受けている。 (2009 年)

...

3. 生産資源および金融資源への限定的なアクセス

b) 土地および財産への安全なアクセス

民法では、女性は土地と財産を相続できると定められているが、娘の場合、息子の半分の権利しかなく、寡婦は子どもがいる場合は財産の 8 分の 1、いない場合は 4 分の 1 で、離婚した女性は何も受け取ることができない。 (2011 年、WCLRF)

...

② 離婚証明書なしの離婚

ウ HRW「『逃げるしかなかった』アフガニスタンにおける『道徳的犯罪』を犯した女性と少女たちの投獄」米国司法省ウェブ (2012 年 3 月)

ヒューマン・ライツ・ウォッチが多くの人々に聴き取り調査を実施したところによると、差別的な家族法と女性から離婚をすることが難しい状況が、問題のカギとなっている。複数の女性や少女が夫から離婚してもらおうと努力したが無理だと分かり逃げ出している。ジーナ (zina : 姦通) で告発された場合、駆け落ちした相手と結婚したり、夫が、妻が別の男性と結婚する前に口頭で離婚を承諾したという事実から無実となった者もいる。しかし、どちらの場合でも、ジーナの罪から彼女たちを保護するための婚姻や離婚にかかる書類は不足していた。

...

2011 年に夫の下から逃げ出したアスマは、夫から何度か離婚を言い渡されたと述べたが、それを証明できる書類は何も持っていなかった。元同僚で男性の友人の

一人が彼女の逃亡を助けてくれた。彼は彼女の「離婚した」という言葉を信じ、一緒に暮らせるようにするために結婚した。「結婚したくてしたわけではありません。私はただ夫の下から逃げ出したいくて、一人では生きていけないし、他に方法が分からなかったのです。」

しかし、アスマの夫は彼女を見つけ、離婚した事実を否定し、彼女を「逃亡したこと」、ジーナおよび金銭を盗んだ罪で告発した。アスマは逮捕され刑務所に入れられた。ヒューマン・ライツ・ウォッチがアスマにインタビューした際、彼女はすでに数週間刑務所に拘留されていたが、判決は出ていなかった。彼女の 2 番目の夫も逮捕され嫌疑を掛けられている。…

※前掲

③ 単身女性、離婚した女性の状況

ア UNHCR 「[アフガニスタン出身の庇護希望者の国際保護の必要性評価に向けた UNHCR の見解](#)」(2018 年 8 月 30 日)

6. AGEs が解釈するイスラム教の原則、規範および価値に違反していると見なされる個人

報告によれば、タリバンは、自らが解釈するイスラム教の原則、規範および価値に違反していると見なされた個人・コミュニティの殺害、攻撃および脅迫を行っている 420。

タリバンは、地元住民の人心を掌握しようとしている地域では、姿勢を軟化させていると報告される 421。しかし、その地域が実効支配下に置かれた途端、タリバンは厳格な解釈に基づくイスラム教の原則、規範および価値を強制するという 422。タリバンの美德推進・悪徳防止省の職員が街を巡回しているとの報告があり、人々はひげを剃ったりタバコを吸ったりしたことを理由に拘禁されているとされる 423。報告によれば、女性は夫または男性の家族に同伴されない限り家を出ることを許されておらず、外出が認められる理由もごくわずか(例えば医者にかかるため)である 424。この規則に違反した女性および男性は公開のむち打ち刑によって処罰され、殺害さえされてきたと報告される 425。

…

イ 英国内務省 「[国別政策情報ノート アフガニスタン：ジェンダーを理由とした暴力を恐れる女性、3.0 版](#)」(2020 年 3 月)

b. 社会的な取り扱い

2.4.4 女性の社会的地位は、教育、地域文化、経済、地理、民族、宗教によって異なる。カブールのような都市部の女性の多くは、タリバン追放以来、可視化され、教育や仕事にアクセスしやすくなり、例えば、カブールでは何万人もの女性が家の外で働くようになった。しかし、アフガニスタンは依然として家父長制か

つ保守的な社会であり、特に女性のほとんどが暮らす農村部のコミュニティでは、ジェンダーの役割についての考え方が根強く残っている。女性は通常、父親や後には夫の所有物とみなされ、従うことが期待されている。同伴者のいない女性は、特に農村部では、嫌がらせや虐待（強引なものを含む）を受けずに、家の外を簡単に歩いたり、出たりすることはできない。教育を受けた女性は、経済的に自立し一人暮らしすることを望んだという理由で、保守的な家族や強硬派のイスラム教徒から敵対視されることがある（「文化的背景：差別と不平等」、「経済参加」を参照）。

※前掲

ウ 国連人権理事会「[女性に対する暴力、その原因および結果に関する国連特別報告者報告 ラシーダ・マンジョー](#)」（2015 年 5 月 12 日）

B. コミュニティにおける女性への暴力

19. 女性は家族の「名誉」を守る義務があり、彼らが性暴力の対象になることは、家族やコミュニティに「不名誉」のレッテルを貼ることになると考えられている。そのため、多くの場合、恥じるべきはレイプの被害者とされる。農村地域に住む女性や少女、独身女性、寡婦、離婚した女性、夫が不在にしている女性は性被害に遭うリスクが高い。
20. 相当数のレイプ事件が、凶器を使った強盗や、誘拐、ギャング活動の最中に起こっていることはよく知られている。代表的な例としては、2014 年に起こった事件が挙げられる。警察のユニフォームを着てカラシニコフ銃を持った 7 人の男がカブールに向かう 2 台の車を停めた。武装した男たちは乗っていた人たちを車から降ろし、金品を奪い、4 名の女性をレイプした。その中には妊娠している人もいた。2014 年 9 月に行われた 2 時間に及ぶ裁判で、7 人の男は武装強盗とジーナの罪で起訴され、強盗が最高で死刑となる、「国内外の治安に対する 1987 年犯罪法」により死刑を言い渡された。実際は、被告人たちはレイプの罪では起訴されず、ジーナの罪というところが、被害女性との間に同意があったとみなしたということを示唆している。

ア EASO「[COI レポート：アフガニスタン 主要な社会経済指数 カブール市、マザーリシャリフおよびハラート市](#)」（2020 年 8 月）

2.7.2 土地および財産法

...

土地の権利と財産の所有権を取り戻すことは、難民が本国に帰還し再定住するうえで主要な課題と考えられてきた⁵⁸³。2020 年、国連人道問題調整事務所（UNOCHA）は住宅と土地および財産の問題は依然として課題であると述べた⁵⁸⁴。女性の権利グループは、離婚した女性や寡婦が、土地や財産に関する自らの権利を主張することは、それらがアフガニスタン憲法や民法、シャリーア法で認められて

いる権利であったとしても、様々な困難に直面することになると報告した⁵⁸⁵。

イ [EASO「COI クエリー回答 アフガニスタン:「欧米風」と見なされた者の取扱い」](#) (2020 年 9 月 2 日)

1.2 「欧米かぶれ」な振る舞いや生活をしていると見なされた者、特に女性や少女はどのような状況にあるか。

...

女性で公的な仕事に就いている者、例えば公務員や弁護士、教師等は、様々な社会的地位の人たちから「不道德」と見なされる可能性がある。米国国務省 (USDOS) の 2019 年報告によると、「政府や政治の世界で活躍している女性は引き続き脅迫や暴力にさらされており、タリバンや他の反政府組織から襲撃の標的とされている」。UNHCR は「公共圏にいる女性や公職に就いている女性は、そうした振る舞いがふしだらであり、社会規範に対する罪だと考えられているため、いまだ脅迫や強襲の標的とされている」と述べた。ヒューマン・ライツ・ウォッチ (HRW) は 2019 年、「アフガニスタンで公職に就いている女性たちは高い確率でセクハラや性暴力の被害に遭った」と報告した。加えて、独身や離婚した女性は、アフガニスタン社会では好意的に受け取られない。⁵⁴

ウ [オランダ外務省「アフガニスタン出身国情報」](#) (2019 年 3 月)

独身女性の取扱い

アフガニスタンでは独身女性として生きることは非常に珍しい。女性は結婚しその夫の所有物になるまでは、父親の所有物であると見なされる。女性が一人で暮らすことは危険であり、独身女性はグループであちこち移動する。男性の保護がない場合、女性は嫌がらせを受けたり差別されたりするリスクが非常に高い。独身の母親は息子の付き添いがあるときのみ、妨害されることなく道を歩くことができる。7 歳以上の男の子がこの付き添い役を担うことができる。

離婚した女性には常に危険が付きまとう。アフガニスタン社会も政府も若くして離婚した女性を、男性なしに生活していくことができる大人であるとは見なさない。離婚した女性は父親の家に戻れないことがほとんどで、家族のお荷物と考えられることもある。彼らはしばしば財産や住宅の権利、子どもの親権を元夫やその家族に手放すよう強制される。^{509F 510} アフガニスタン社会では、寡婦は「アイデンティティや保護がない女性」とであるという目で見られる。寡婦はアフガニスタンでは経済的負担を増やす存在であるため、社会にとって足かせであると考えられている。^{510F 511} アフガニスタンには約 250 万人の寡婦がいると推計される。女性は読み書きができないことがあり、家の外で働いた経験がほとんどない、あるいはまったくないことがあるため、夫を亡くすとお金を稼ぐ方法がほとんどない。せいぜい、夫が軍事活動で亡くなった場合、政府から年間で 150 ドル支給される程度である。多くのアフガニスタンの寡婦が、自ら頼み込んだり、子どもたちに頼みに

行かせたりし、他人の家での家事労働で何とか生活しているのが現状である。^{511F}

512

④ 離婚した女性に対する攻撃

ア 記事「[タリバン『夫と離婚し再婚した女性を殺害』](#) BBC (2016 年 12 月 19 日)

...

アフガニスタンでは、特に女性にとって、離婚はタブーである。

当局によると、過激派はその女性（アジザという名前とのこと）を強制的に父親の家に連れて行き、そこで彼らは彼女を撃った。

...

報道によると、彼女は別の男性と結婚したが、イランでの仕事から戻ってきた夫は離婚を拒否し、その過激派のもとへ行った。

タリバンのスポークスマンであるカリ・ユスフ・アハマディは BBC に対し、殺害の原因は家族間の争いであったと述べた。

彼は、タリバンは既に事件に関与した二人の男を拘束し、「シャリーア法に則って処罰する」ことを誓った。

タリバンが、その支配地域において、不倫やその他の罪を告発した後、女性を死刑に処しているという報告が常にある。

タリバンは、1990 年代、彼らが国の権力を握っていた頃、大抵の場合は不貞の疑いを理由に、首都カブールのメインスタジアムで、女性の公開殺害を行っていた。

イ 記事「[Afghanistan: under the shadow of family violence](#)」 TRT World (2019 年 5 月 17 日)

Divorce rates are on the rise in Afghanistan, but there are still so many women and children forced to endure a life of violence to avoid the shame of a failed marriage.

...

The recent assassination of the female journalist Mena Mangal indicates the difficult situation women continue to face in Afghanistan. A video clip circulating on social media features Mangal's [mother](#) demanding justice also naming the alleged culprit. Mangal's crime? She chose to divorce her husband, whom she had been forced to marry — a costly decision which resulted in her losing her life.

Between March 2017 and March 2018, at least 270 women lost their lives due to domestic violence and honour killings in Afghanistan, as documented by the [Independent Human Rights Commission](#).

5. LGBT

(1) 同性愛者、トランスジェンダー

ア ●英国内務省「[国別政策及び情報ノート アフガニスタン：タリバンの恐怖、1.0 版](#)」(2021 年 10 月)

5.6 LBGTIQ+ persons

...

5.6.2 A further article by Pink News, dated 17 August 2021 following the takeover of the Afghan government, stated: ‘The Taliban is expected to enforce its extreme interpretation of Sharia law across Afghanistan, which would see many women, LGBT+ people persecuted. Under it, queer people and women could be sentenced to death... Queer people have been forced to keep their identities “under wraps” in an effort to survive. Taliban rule will make it even harder for the LGBT+ community to live their lives in secret.’ 130

5.6.3 Vice News, a current affairs media platform, reporting on 19 August 2021, stated:

‘LGBTQ+ people have always lived secret lives in Afghanistan because homosexuality is condemned as immoral and un-Islamic. For young Afghans who already have a bloody conflict to live through, queer identities are rarely discussed. Under the Afghan penal code, “pederasty” – a sexual act between two men – was punishable with long imprisonment. Some Taliban officials previously told the media that gay men would be punished with death under their regime. Sharia laws in other Islamic countries such as Indonesia and Malaysia also ban homosexuality, but their methods of punishment pale in comparison with those of the Taliban, which include stoning, mutilation, and hanging.’ 131

5.6.4 Reuters, reporting on 19 August 2021 stated:

‘Gay and lesbian sex is illegal under Afghanistan’s 2017 penal code and the death penalty is technically allowed under sharia law by the constitution, but has not been enforced since 2001, according to LGBT+ advocacy group ILGA-World. Under the Taliban’s first regime, from 1996 to 2001, there were reports that men accused of having gay sex were sentenced to death and crushed by walls pushed over by tanks. A Taliban judge has said that gay sex should be met with a death sentence of stoning or a toppled wall, according to an interview published last month by German newspaper “Bild”.’ 132

5.6.5 On 20 August 2021, India Today reported: ‘With homosexuality considered immoral under Sharia law, the LGTBQ+ community in Afghanistan now lives in the constant fear of persecution.’ 133 Speaking to the Business Insider after the Taliban took Kabul, 3 gay men living in Afghanistan, who had previously been able to enjoy the ‘underground’ gay scene or meet with partners, expressed their newfound fear of being identified as gay and put to death¹³⁴.

...

イ 英国内務省「[国別政策情報ノート アフガニスタン：性的指向及びジェンダー・アイデンティティと表現、3.0 版](#)」（2020 年 2 月）

b) State treatment

2.4.5 The revised Afghan Penal Code came into force in February 2018. It explicitly criminalises consensual same-sex sexual acts (for both men and women), which are punishable with imprisonment of up to two years or, under Islamic (Sharia) law, a maximum penalty of death. Sharia law is more likely to be applied in isolated, rural communities. There is no law prohibiting discrimination on the basis of sexual orientation and no legal recognition of transgender or, unlike in other some South Asian countries, ‘third gender’ persons (see Legal context and Law enforcement).

...

2.4.7 It should be noted that homosexuality is not exclusive to Pashtun culture. LGBTI persons (predominantly males and transgender women) have reported that they face harassment, extortion, violence (including sexual assault and rape), arrest and detention by the police (Treatment by the police). However, accurate statistics on the number and frequency of arrests of LGBTI persons are not available to determine how systematically the law is enforced and there are no documented prosecutions of persons involved in same-sex sexual acts (see Law enforcement).

ウ ●DFAT「[出身国情報報告 アフガニスタン](#)」（2019 年 6 月 27 日）

3.70 Homosexual sex is illegal in Afghanistan. Article 427 of the Penal Code defines homosexual sex as ‘pederasty’ (sexual activity between a man and a boy), and provides for the use of the death penalty in accordance with sharia. DFAT understands that there have been no instances of the death penalty been carried out on this issue since the overthrow of the Taliban regime. However, there have been frequent credible reports that individuals perceived to be homosexual (almost exclusively males) have continuing difficulties with the police, including harassment and/or arrest (usually on spurious charges).

...

6. 汚職、非国家主体による犯罪、国家保護・国内避難の選択可能性

(1) タリバン以外の武装勢力

ア ●EASO「[出身国情報報告 アフガニスタン：治安状況の更新](#)」（2021 年 9 月）

1.3.5 Islamic State in Iraq and the Levant-Khorasan Province (ISKP)

Sources reported that ISKP regained strength in the first quarter of 2021, including through recruitment of disaffected Taliban members, continues to pose a threat in Afghanistan and the region at large, and retains the ability to carry out terrorist attacks in Kabul and other major cities.¹⁹³ The core group in Kunar and Nangarhar provinces reportedly retains around 1 500 to 2 200 fighters, mainly Afghan and Pakistani nationals, while smaller autonomous groups located in Badakhshan, Kunduz and Sar-e Pol are predominantly local ethnic Tajiks and Uzbeks. Sources reported to the UN Analytical Support and Sanctions Monitoring Team that a 450-strong cell of ISKP was disrupted around Mazar-e Sharif in Balkh Province, suggesting that the group may be stronger in northern Afghanistan than previously assessed.¹⁹⁴ The UN Secretary General reported an increase in attacks between 12 February and 15 May 2021 claimed by or attributed to ISKP – 88 compared with 16 during the same period in 2020, including targeted attacks on civilians in urban areas.¹⁹⁵ Between 1 January and 30 June 2021, UNAMA recorded 439 casualties (124 killed and 315 injured) in ISKP claimed or attributed attacks, which was 9% of the total casualties for that period.¹⁹⁶

イ ●DIS [「アフガニスタン：治安状況の最近の変化、民間人や標的にされた個人への影響」](#) (2021 年 9 月)

Remaining and new actors in Afghanistan

Although these rapid developments in the conflict have put the Taliban in control of all of Afghanistan but the Panjshir Valley and other small pockets of resistance, it should be noted that the Taliban does not constitute the only actor in the country.

In the Panjshir Valley, the remnants of the former Afghan government and local militias had formed the National Resistance Front (NRF) led by former Vice President of the Republic, Amrullah Saleh and Ahmad Massoud. The NRF was said to consist of several thousand men with equipment from the Afghan army prior to the Taliban capture of Panjshir.⁵¹ In the days following the Taliban capture of Panjshir, Massoud vowed that the NRF would continue to resist the Taliban.⁵²

Al-Qaeda consists of approximately 500 members and operates in at least 15 of Afghanistan's 34 provinces, primarily in the east, southern and south-eastern regions, according to assessments from the United Nations Security Council (UNSC). UNSC further states that the group remains closely aligned with the Taliban.⁵³

Islamic State of Khorasan Province (ISKP) is assessed to retain a core group of approximately 1,500 to 2,200 fighters primarily in small areas of the eastern provinces of Kunar and Nangarhar, but is also present in smaller numbers in northern provinces such as Balkh, Badakhshan, Kunduz and Sar-e Pul. The group suffered significant losses of territory and personnel in 2020, but continues to facilitate attacks throughout Afghanistan, including bigger cities such as Jalalabad and Kabul.⁵⁴

Among other actors still present in Afghanistan is the Islamic Movement of Uzbekistan

(IMU), which consists of approximately 700 fighters located in Faryab, Sar-e Pul and Jawzjan Provinces, where they rely on local branches of the Taliban for financial backing.⁵⁵

ウ ●DFAT「[出身国情報報告 アフガニスタン](#)」(2019 年 6 月 27 日)

2.55 Anti-government elements (AGEs) encompass all individuals and armed groups involved in armed conflict with or armed opposition against the Government of Afghanistan and/or international military forces. They include those who identify as ‘Taliban’, as well as individuals and non-state organised armed groups taking a direct part in hostilities and assuming a variety of labels, including the HQN, ISKP, Hezb- e- Islami, Islamic Movement of Uzbekistan, Islamic Jihad Union, Al Qaeda, Lashkar-e-Tayyiba, Jaysh- e- Muhammed, and other militia and armed groups directly engaged in hostile acts on behalf of a party to the conflict.

...

2.57 ISKP formally launched its Afghanistan operations in January 2015, pledging its allegiance to the ‘caliphate’ in Syria and Iraq. Initially based in Nangarhar province on the porous Pakistan border, ISKP has subsequently expanded its presence to approximately 30 districts across the country, primarily in the north and east. The UN has estimated the overall size of the group in Afghanistan at between 1,500 and 6,000. ISKP has identified its specific targets as the Shi’a community (see Shi’a), government and foreign military forces, and the Taliban, who had not previously been challenged by an insurgent group. Despite rigorous targeted operations against ISKP by the government and international military forces, and fierce fighting between the Taliban and ISKP in a number of provinces, ISKP has continued to carry out attacks and targeted killings.

2.58 The HQN, founded by a mujahedeen commander (and US ally during the Soviet occupation), is reportedly active along the Pakistan border area and across much of southeastern Afghanistan. The HQN has repeatedly targeted Kabul in its attacks. International observers believe it retains at least several hundred core members and a pool of upwards of 10,000 fighters. The HQN cooperates closely with the larger Taliban and other organisations, including al-Qaeda and Jaish-e-Mohammed. It receives much of its funds from donors in Pakistan and the Gulf, and through criminal activities such as kidnapping, extortion, and smuggling.

(2) 血讐

ア UNHCR「[アフガニスタン出身の庇護希望者の国際保護の必要性評価に向けたUNHCRの見解](#)」(2016 年 4 月 19 日)

一般的に、血讐はある家族の構成員が報復的な復讐行為においても一つの家族の構成員を殺害することを含み、そうした行為は名誉と振る舞いに関する古い行動規範にしたがって実行される。アフガニスタンの文脈においては、血讐は主と

してパシュトゥーン族の伝統であり、パシュトゥーン人の慣習法制度である Pashtunwali に根ざしている一方で、その他の民族の間でも行われていると報告されている。血讐は殺人によって引き起こされ得るが、永久的で深刻な損傷、既婚女性の誘拐・暴行または土地・水供給へのアクセス・財産に関する未解決の争いなどの違反行為によっても引き起こされることがある。血讐は、報復的な暴力と復讐の長期にわたる循環を生むことがある。Pashtunwali では、原則として、罪を犯した者に対して復讐しなくてはならないが、一定の状況においては、罪を犯した者の兄弟やその他の父方の親族が復讐の標的となり得る。一般的に、女性や子どもに対しては（復讐は）必要とされないと報告されている。被害者の家族が復讐を実行できる状況にない場合、被害者の家族が復讐をすることができると思う時まで血讐は休止状態に置かれることがあると報じられている。そのため、復讐は最初の違反行為から数年または数世代もかかることがある。公式の司法制度によって罪を犯した者の処罰がなされる場合でも、必ずしも被害者の家族による暴力的な報復を妨げるものではない。血讐を終わらせるために伝統的な紛争解決メカニズムを通じて和解がされない限り、罪を犯した者の服役後にも、被害者の家族が彼に対して復讐することが期待されると報告されている。

(3) 武装勢力からの国家による効果的な保護

ア ●EASO「[COI クエリー回答 アフガニスタン: ジャーナリスト・報道関係者・人権活動家](#)」ecoi (2020 年 8 月 28 日)

The above mentioned international human rights organisations noted in their press release:

‘Despite a public commitment to protect defenders and the launching of a protection strategy for human rights defenders in early 2020, the government has failed to investigate and bring justice to those that have been victimised and targeted as a result of their human rights work. [...] We call on the Afghanistan government to provide effective support and protection to human rights defenders and to carry out immediate, thorough and impartial investigations into these attacks, with a view to publishing the results and bringing those responsible to justice.’ 86

AI also noted how the government ‘has repeatedly failed to investigate attacks on human rights activists, sometimes accused them of ‘fabricating’ their claims, and even told them to take up arms to defend themselves.’ 87

《参考》 法務省入国管理局「[難民と認定した事例等について](#)」(平成 29 年における難民認定者数等について・資料 2) (2018 年 3 月 23 日)

【事例 3】(判断のポイント)

出身国情報によれば、本国において、反政府武装組織が勢力を拡大したことにより、治安情勢が急速に悪化しており、本国政府の管轄下にあるのは全土の 5 割程

度にすぎず、本国政府の統治能力が著しく低下した状態にあると認められ、また、反政府武装組織が自らに批判的な意見を報道したマスメディアを軍事目標としていることなども認められる。

申請者の申立て等によれば、申請者は、反政府武装組織が軍事目標としているマスメディアにコメンテーターとして出演し、反政府武装組織に反対する立場から政府の今後の展望などについて発言したところ、脅迫を受けたことが認められ、上記のような国内情勢に鑑みれば、帰国した場合、反政府武装組織から生命又は身体に危害を加えられるおそれがあり、また、本国政府による効果的な保護を期待できないと認められる。

【事例 8】（判断のポイント）

出身国情報によれば、本国では、反政府武装組織によるテロが多発しており、同組織が A 国を含む駐留外国軍や A 国に支援を受けた政府及び国際開発 援助機関の職員を攻撃対象としていることなどが認められる。

申請者の申立て等によれば、申請者は、本国にある A 国の機関の責任者である父の子として、反政府武装組織に把握されているのは明らかであると認められ、上記のような国内情勢に鑑みれば、帰国した場合、反政府武装組織から生命又は身体に危害を加えられるおそれがあり、また、本国政府による効果的な保護を期待できないと認められる。

《参考》 法務省入国管理局「[難民と認定した事例及びその判断のポイント](#)」 (平成 28 年における難民認定者数等について) (2017 年 3 月 24 日)

【事例 6】（判断のポイント）

本国情勢に係る客観的情報によれば、本国では、A 等の武装勢力による本国政府に対する武力攻撃が激化しており、これら武装勢力による犯罪也多発しているところ、本国政府とのつながりを有する者が、A を含む反政府組織の標的となっており、その攻撃による死者数が増加していることが認められる。

申請者の申立てによれば、申請者は、A からの脅迫や暴行等にもかかわらず、本国の発展のために公共事業の責任者として勤務し、A からの協力要請等に応じていないことから、申請者は、A を支持せず本国政府を支持するという政治的意見を有している者であると認められる。また、申請者の上記のような個別事情から、申請者は A の標的とされていると考えられるところ、上記のように、反政府組織による、特に本国政府とのつながりを有する者に対する組織的な攻撃が増加している国内情勢に鑑みれば、申請者が帰国した場合、A からの攻撃に対し本国政府による効果的な保護は期待できないと認められる。

【事例 9】（判断のポイント）

本国情勢に係る客観的情報によれば、教師や女性議員等、公的立場にある女性は、反政府組織や、市民社会の構成員、宗教的権威者、政府当局等により標的とされ、人権侵害や、脅迫等の暴力的な攻撃に晒されている状況があること、また、A が勢力を拡大し、その攻撃による死者数が増加していること、A が、政府に対する全国規模の攻勢を強め、治安回復が困難な状況にあることに加え、A が、親政府的意見を持つ者、女性の人権の擁護者を特に標的にしていることが認められる。

申請者は、本邦に留学するまで、本国において大学講師として稼働しており、帰国しても同様の職業に就くことが想定される女性であるところ、上記のような国内情勢に鑑みれば、申請者が帰国した場合、A や地元の聖職者等からの攻撃に対し本国政府による効果的な保護は期待できないと認められる。

(4) カブールへの国内避難の選択可能性

ア ●UNHCR「[アフガニスタン：カブールへの国内避難の選択可能性又は代替的な国家保護に関する出身国情報（COI）編纂](#)」（2019 年 12 月）

1. The relevance of Kabul as an IFA/IRA: the security situation for civilians in Kabul

...

A report written by the Harvard Humanitarian Initiative published in December 2018 notes that “[p]olitically speaking, the Taliban remains present at both the local and national levels and is very visible in Kabul, where its leaders make and communicate decisions.”⁴⁵ The authors point to the absence of the central authorities in Kabul:

“Many Afghans do not perceive the central authority in Kabul to be aware of, or concerned with, the daily realities of life in conflict. Rather, there is a perception that the central authorities are staying safely behind closed doors, trying to maintain their positions of power and influence, engaging with international powers imposing their agendas over the country, and discussing the challenges of Afghanistan only in international fora.”⁴⁶

...

In addition to conflict-related violence, media sources report that Kabul city is “often gripped by gun-toting crime syndicates that receive protection from the country’s elite”.⁴⁹

...

3. The situation of Afghans who are returned to Kabul

In a study about the situation of Afghans who were deported from Germany to Afghanistan, published in September 2019,¹⁰⁴ Friederike Stahlmann reports that a “significant number” of deported Afghans leaves the country within a short period of time.¹⁰⁵ Only one out of 51 persons indicated that he planned to stay in the country.¹⁰⁶

...

According to Stahlmann, 90 per cent of the studied deportees in Kabul experience

violence upon their return,¹⁰⁸ yet incidents of violence in Afghanistan go often underreported . ¹⁰⁹

...

イ ●DFAT「[出身国情報報告 アフガニスタン](#)」(2019 年 6 月 27 日)

2.64 Kabul remains a particularly significant target for suicide and complex attacks against both civilian and non-civilian targets carried out by AGEs. The ANDSF and international forces have put in place a range of counter-measures to prevent and respond to insurgent attacks in Kabul. These include numerous checkpoints along highways leading into Kabul, at major intersections, and outside government and international institutions. These checkpoints provide a deterrent to insurgent attacks by increasing the probability of detection before AGEs are able to carry out their attacks. Nevertheless, the checkpoints vary in their effectiveness, and violent attacks within the city are common (see Shi'a and People associated with the government or international community).

ウ 外務省海外安全ホームページ「[海外安全情報（危険情報）アフガニスタンの危険情報【危険レベル継続】（内容の更新）](#)」(2018 年 10 月 9 日)

1) 首都カブール：「レベル 4：退避してください。渡航は止めてください。（退避勧告）（真にやむを得ない事情で現地に滞在せざるを得ない場合は、政府機関、所属団体等を通じて組織としての必要かつ十分な安全対策をとってください。）」（継続）

ア カブール市内は、治安当局による警備・警戒が特に強化されているものの、タリバーンや「ISIL ホラサーン州」による政府機関、治安当局、外国軍及び外国人を標的としたテロ攻撃等が頻発しています。

イ 誘拐、強盗等も発生しています。特に誘拐について、外国人は反政府武装勢力、犯罪者集団等から標的とされやすく、主に早朝、夜間に車で移動中に武装集団に襲撃され、拉致されるケースが多く見られます（同乗しているアフガニスタン人は誘拐されていません。）。また、警備が脆弱な事務所又は宿舎が襲撃され、誘拐されるケースもあります。警察当局は、外国人が所属する NGO 事務所等に対して、誘拐の防止に向け、事務所や住居への監視カメラや警備員の配置、移動の経路や時間帯の頻繁な変更、身辺警護員の同行及び可能な限りでの防弾車の利用等の勧告を行っています。

ウ カブール中心部の各国大使館、政府機関が集まるエリアに、ロケット弾及び迫撃砲が着弾しています。ロケット弾及び迫撃砲は、一度に複数着弾するケースが多く、さらに、標的から外れて着弾することもあります。

エ これまでに発生した襲撃事件では、事前に実行犯グループが攻撃対象の身内

の人物と内通しているケースが見られます。2018 年 4 月 22 日にタリバーンにより宣言された「春季攻勢」においても、外国人が攻撃対象として明記されるとともに、攻撃対象内部に潜り込んでの攻撃が推奨されています。

オ このような事態を踏まえ、外国人が身の安全を確保するためには、政府機関、所属団体等を通じた極めて高度な警備体制が必要になります。

カ 最近のカブール市内の主なテロ事案

- ・ 7 月 15 日、農村復興開発省（MMRD）付近で自爆攻撃が発生。少なくとも 7 名死亡、15 名負傷。
- ・ 7 月 22 日、空港付近で政府関係者を狙った自爆攻撃が発生。少なくとも 27 名死亡、107 名負傷。
- ・ 7 月 24 日、警察関連施設に複数のロケット弾が着弾。7 名が負傷。
- ・ 7 月 26 日、政府関係者の車列に自爆攻撃が発生。少なくとも 5 名死亡、6 名負傷。
- ・ 8 月 13 日、選挙関連施設付近で自爆攻撃が発生。少なくとも 1 名死亡、1 名負傷。
- ・ 8 月 15 日、教育関連施設で自爆攻撃が発生。34 名死亡、56 名負傷。
- ・ 8 月 16 日、武装集団が政府関連施設を襲撃。
- ・ 8 月 19 日、市内中心部に複数のロケット弾が着弾。
- ・ 8 月 19 日、警察車両に仕掛けられた爆弾が爆発。1 名負傷。
- ・ 8 月 21 日、市内中心部に複数のロケット弾が着弾。3 名負傷。
- ・ 9 月 2 日、市内中心部において車両が簡易爆弾によって爆発。少なくとも 4 名負傷。
- ・ 9 月 3 日、市内中心部において磁気地雷が爆発。死傷者なし。
- ・ 9 月 5 日、市内西方のレスリングクラブで、自爆攻撃が発生。その後 2 度目の爆弾が爆発。21 名が死亡、89 名が負傷。
- ・ 9 月 9 日、市内西方の警察本部がタリバンの襲撃に遭い、10 名が死亡。
- ・ 9 月 9 日、市内中心部を進む行列の近くで、オートバイに乗った人物が自爆し、7 名が死亡、25 名が負傷。
- ・ 9 月 11 日、市内東部にロケット弾計 3 発が着弾。被害・死傷者なし。

エ UNHCR [「アフガニスタン出身の庇護希望者の国際保護の必要性評価に向けた UNHCR の見解」](#)（2016 年 4 月 19 日）（更新前）

〔19-20 頁〕

紛争はますます国内全域に影響を及ぼすようになってきている。加えて、紛争の性質が変化し続けていると報告されている。2014 年末の国際部隊の撤退完了以来、

AGEs が行った攻撃の回数は増加しているとの報告があるが、その中には複合攻撃、自爆攻撃、標的を絞った意図的な殺害、ANSF の検問所および比較的小規模な駐屯地を直接狙う攻撃などが含まれる。農村部のコミュニティの支配を目的とした全面的な脅迫活動の他にも、AGEs による地元の文民指導者を標的とした殺害や誘拐が著しく増加している。AGEs はカブールなどの都市で目立った攻撃を実行し続けており、農村部や人口の少ない地域にも勢力範囲を広げつつある。

脚注 197 City University の Liza Schuster 博士が不認定とされた庇護申請者の中でカブールに送還された約 100 名にインタビューを行ったところ、「彼女がインタビューした人の大多数が、もう一度国を離れようと試み、その内約 80 パーセントが成功した。」ということが分かった。…英国からアフガニスタンに送還されたアフガニスタン人のグループを追跡した Refugee Support Network (RSN) によると、その帰還者の多数が再度アフガニスタンを離れようと意図していた。…

[36 頁]

カブール市はアフガニスタンの街の中でも最も人口増加が多い街である。公式な人口推定値によると、カブール市は 2015 年には 350 万人の住民を抱え、2005 年から 2015 年の年間人口増加率は 10 パーセントになると見積もられている。カブールの人口の内、推定で 21 パーセントがカブール以外の都市で出生しており、また、カブールは 2002 年以降、アフガニスタン内の紛争が原因で新たに IDPs となった者の 40 パーセント近くを受け入れていると報告されている。カブールの人口の中で、非公式な居住地で暮らす人が 70 パーセントに上ると推定する者もいる。カブール居住者の経済状況および雇用機会は悪化してきていると報告されている。カブール非公式居住地 (KIS) は長期的な移動を強いられている IDPs・帰還民・その他の都市部の貧困層が人道支援を受けられる地域として指定されているが、そこに住む人々約 5 万 5000 人の 80 パーセントが深刻なまたは中程度の食糧危機に直面していると報告されている。

オ 米国国務省「[人権報告 2016 年-アフガニスタン](#)」(2017 年 3 月 3 日)

複合的攻撃と自爆攻撃の増加は、(2016 年) 7 月のカブールでの攻撃で目立ち、カブールの デー・マザング (Deh Mazang) 広場で平和的デモが行われていた最中に 2 度の爆弾攻撃が発生した。80 名余りの、シーア派ハザラ族が圧倒的に多かったデモ参加者が爆発によって 殺害され、230 名余りが負傷した。

《参考》UNHCR「[アフガニスタン出身の庇護希望者の国際保護の必要性評価に向けた UNHCR の見解](#)」(2018 年 8 月 30 日) (更新前)

3. 国内避難・移動の選択可能性 (IFA/IRA)

AGEs がその実効支配下にある地域で深刻かつ広範に及ぶ人権侵害を行っており、国家にはこれらの地域でそのような人権侵害からの保護を提供する能力がないことを示す入手可能な情報を踏まえ、UNHCR は、AGEs の実効支配下にある同国内の地域において IFA/IRA は利用可能ではないと考える（移動先の候補とされる地域の AGE 指導者と過去に関係を築いている個人については例外的に利用可能な場合もある）。

UNHCR はまた、政府派の部隊と AGEs との間でまたは AGEs 同士の間で進行中の戦闘の影響を受けている同国内の地域でも IFA/IRA は利用可能ではないと考える。

...

カブールを IFA/IRA の候補地とすることの妥当性・合理性分析に関連した様々な考慮事項を背景として、かつ全般的な紛争・人権侵害状況および、これがより幅広い社会経済的文脈に及ぼす悪影響を考慮に入れ、UNHCR は、カブールでは一般的に IFA/IRA は利用可能ではないと考える。

7. 兵役、強制徴集（非国家主体の）

ア ●英国内務省「[国別政策及び情報ノート アフガニスタン：タリバンの恐怖、1.0 版](#)」（2021 年 10 月）

5.11 Persons who refuse to join the Taliban as fighters

5.11.1 Referring to recruitment by the Taliban, the EASO report on Anti-Government Elements, dated August 2020, noted:

The Taliban typically recruit young males from rural communities who are unemployed, educated in madrasas and ethnically Pashtun, according to independent Afghanistan expert, Borhan Osman. Recruitment usually occurs through the group's Military Commission and outreach in mosques, as well as through personal networks and families of fighters, many of whom are motivated by "deep loathing for the Western institutions and values the Afghan government has taken up from its allies". Rather than paying salaries, the Taliban cover expenses; while the movement has become entrenched in crime and narcotics as fighters keep the spoils of these activities.'¹⁸²

5.11.2 UNAMA noted in its Annual Report for 2020 that, throughout the year, children continued to be recruited by the Taliban¹⁸³. UNAMA verified the recruitment and use of 196 boys in 2020, mostly in the north and northeast of the country, and 172 recruits were attributed to the Taliban¹⁸⁴. In 2019, UNAMA verified 58 children were recruited by the Taliban¹⁸⁵.

5.11.3 In 3 separate studies exploring Taliban rule in territories under their control, the Afghanistan Analysts Network (AAN) looked at Andar district in Ghazni province¹⁸⁶, Nad Ali district in Helmand province¹⁸⁷, and Dasht-e Archi district in Kunduz province¹⁸⁸, and in each study, referred to Taliban recruitment methods, which indicated

that the Taliban did not use direct force to recruit young male conscripts although some may be coerced.

5.11.4 A BBC report dated April 2020, indicated that some teenagers were inspired to join the Taliban or Islamic State after viewing their propaganda videos or attending madrassas in Taliban-controlled areas¹⁸⁹.

5.11.5 CPIT was not able to find relevant information on Taliban recruitment since their takeover of Kabul in August 2021 (see Bibliography).

...

8. 司法制度・刑事手続【未調査】

9. 警察・治安部隊（刑務所等の状況含む）【未調査】

10. 報道の自由

(1) タリバンによるジャーナリスト等への攻撃

ア ●英国内務省「[国別政策及び情報ノート アフガニスタン：タリバンの恐怖、1.0 版](#)」（2021 年 10 月）

5.8 Journalists

...

5.8.2 HRW claimed in a further article dated 1 April 2021 that they had:

‘... found that Taliban commanders and fighters have engaged in a pattern of threats, intimidation, and violence against members of the media in areas where the Taliban have significant influence, as well as in Kabul. Those making the threats often have an intimate knowledge of a journalist’s work, family, and movements and use this information to either compel them to self-censor, leave their work altogether, or face violent consequences. Provincial and district-level Taliban commanders and fighters also make oral and written threats against journalists beyond the areas they control. Journalists say that the widespread nature of the threats has meant that no media workers feel safe...

‘Women journalists, especially those appearing on television and radio, face particular threats. The recent wave of violent attacks has driven several prominent women journalists to give up their profession or leave Afghanistan altogether. Female reporters may be targeted not only for issues they cover but also for challenging perceived social norms prohibiting women from being in a public role and working outside the home.’¹⁵

...

5.8.4 On 18 August 2021, the AP cited Taliban spokesman, Zabihullah Mujahid, who said, ‘... private media should “remain independent” but that journalists “should not work against national values.”’¹⁵²

5.8.5 On 20 August 2021, the Guardian reported that, ‘A German broadcaster said a family member of one of its reporters had been shot and killed by the Taliban when they came looking for the journalist, who had already fled the country.’¹⁵³

イ ●EASO「[出身国情報報告 アフガニスタン：治安状況の更新](#)」（2021 年 9 月）

Journalists and media workers

...

Reporters Without Borders (RSF) claims that around 100 media outlets have stopped operating, while hundreds of Afghan journalists have either gone into hiding or fled the country. Furthermore, still operating media outlets allegedly work in accordance with new conditions set by the Taliban. RSF states that Taliban promises of press freedom ‘can only be regarded with the utmost scepticism’.⁷⁵

...

During the first days after the Taliban’s take-over, women quickly disappeared from broadcasting media. However, some female news anchors and reporters soon resumed work and appeared on screen.⁷⁹ On 17 August 2021, a female news anchor, Beheshta Arghand, interviewed a Taliban spokesperson on air⁸⁰, and a female journalist, Hasiba Atakpal, reported from the streets of Kabul.⁸¹ However, both left Afghanistan soon after.⁸² There have been reports on the Taliban hindering female journalists from resuming work. On 19 August 2021, two journalists at Radio Television Afghanistan (RTA) claimed that the Taliban were barring them from returning to work by not letting them into their office, while male colleagues were allowed to enter the building.⁸³ According to Pajhwok News, the Taliban in Ghazni have banned female presenters and music from broadcasting media.⁸⁴ The Afghan Analyst Network (AAN) says that the continuation of women’s appearances in media was just an initial trend and that women once again have disappeared off air.⁸⁵

...

On 24 August 2021, RSF published a press release in which private TV channels are said to be subjected to frequent threats, and in which a producer says that the Taliban have beaten five of the channel’s staff in the past week and labelled them as ‘takfiri’ (unbelievers). The producer also accused Taliban members of ‘systematically’ trying to influence reporters in the field.⁹¹ On 25 August 2021, a journalist and a camera operator were allegedly beaten by Taliban members.⁹²

ウ ●DIS「[アフガニスタン：治安状況の最近の変化、民間人や標的にされた個人への影響](#)」（2021 年 9 月）

Journalists and human rights defenders

In an interview with Reporters Without Borders (RSF), Taliban spokesman, Zabihullah

Mujahid, vowed that the Taliban will respect freedom of the press in Afghanistan.¹⁴⁷ However, there have been reports of news outlets shutting down and journalists going into hiding in districts and provinces captured by the insurgents.¹⁴⁸ There have also been reports of Taliban fighters going house-to-house searching for journalists.¹⁴⁹ According to German news outlet, Deutsche Welle (DW), the Taliban have raided the homes of at least three DW journalists since the launch of the offensive.¹⁵⁰

The private news outlet Tolo News, have been allowed to continue their reporting with female anchors, while the Taliban has barred female anchors at Radio Television Afghanistan from returning to work.¹⁵¹

In the wake of the Taliban takeover, the UN Human Rights Special Rapporteurs have also expressed concerns regarding the safety of journalists, human rights defenders and civil rights activist as the insurgents prepare to govern the country.¹⁵² SER advised that Taliban perceive human rights defenders as an extension of the American presence in the country because they find that the idea of human rights undermine the principles of Islam.¹⁵³

Recent incidents of targeted attacks against journalists and human rights defenders include:

- 17 July: Reuters Journalist Danish Siddiqui killed and mutilated by Taliban at Spin Boldak border crossing.¹⁵⁴
- 1 August: Reporter from Pajhwok Afghan News shot and killed by Taliban fighters in Herat province.¹⁵⁵
- 2 August: Interpreter working with German newspaper Die Zeit killed in Jalalabad.¹⁵⁶
- 6 August: The Taliban kills the director of Afghanistan's government media in Kabul.¹⁵⁷
- 8 August: Radio Station manager shot dead by Taliban in Paktia province.¹⁵⁸
- 9 August: Journalists kidnapped by Taliban in Helmand province.¹⁵⁹
- 14 August: Civil rights activist, Haji Azizullah, detained and killed by Taliban in Kandahar.¹⁶⁰
- 18 August: Family member of Afghan journalist shot dead by the Taliban, another injured during a house-to-house search.¹⁶¹

エ ●EASO「[COI クエリー回答 アフガニスタン: ジャーナリスト・報道関係者・人権活動家](#)」ecoi (2020 年 8 月 28 日)

Targeting According to the 2016

EEAS report, human rights defenders experience threats and violence not only from the Taliban or other armed anti-government groups, but also from government entities, warlords and organised crime. They also face more subtle and diffuse forms of violence, such as 'denial of medical care, education for the children, loss of housing, land or citizenship, or

other types of social disqualification'.⁶³ Female human rights defenders are, according to the EU+ Local Strategy, 'in a particularly difficult situation: they are not only targeted for the work they do, but also for who they are and for challenging social and religious patriarchal norms, which may result in stigmatization, isolation and various forms of threats and violence.'⁶⁴ Also the UN Special Rapporteur on the situation of human rights defenders, said in his 2018 report that female defenders 'face higher risks because of their identity and their activism. They often face stigmatization, shame, isolation [...] often, threats against them are not taken seriously and violence is treated with impunity.'⁶⁵

In 2019, USDOS noted that 'human rights defenders were disproportionately targeted'.⁶⁶

In February/March 2019, the global civil society alliance CIVICUS interviewed a number of prominent civil society members and leaders of Civil Society Organisations. They noted a 'shrinking civil society space' in Afghanistan, due to the following factors: 'insecurity and armed groups opposing civil society's work and values; political interference that undermine civil society; exclusion of civil society, and in particular women's groups, from the peace talks'. Concerns about the ongoing threats to journalists and human rights defenders led CIVICUS to put Afghanistan on the CIVICUS Monitor Watch List, which 'highlights countries where there is an urgent, immediate and developing threat to civic space'.⁶⁷

...

オ ●DFAT「[出身国情報報告 アフガニスタン](#)」(2019 年 6 月 27 日)

3.58 Journalists attempting to cover the continuing conflict face an acute risk of violence from both AGEs and state actors. According to Reporters Without Borders, 2018 was the deadliest year for journalists since the fall of the Taliban in 2001, and Afghanistan the world's most dangerous country for journalists. At least 15 journalists and media workers were killed in 2018, many in targeted attacks. The most serious attack affecting journalists in 2018 occurred in Kabul in April, when a double suicide bombing outside the National Directorate of Security killed at least nine journalists and injured six others (along with numerous other civilian casualties). While the casualties of the first explosion were mainly ordinary citizens, the second bomb was set off half an hour later, after reporters had arrived at the scene. Militants have committed further acts of violence against journalists in the first few months of 2019, including the death by shooting of two radio journalists in Taloqan, Takhar province, during an attack on their radio station on 5 February; and the summary execution by the Taliban of a citizen-journalist (and regional government employee) in Farah province on 5 January after he was removed from a bus at a Taliban roadblock (see Road safety). Reporters Without Borders allege that AGEs, particularly the Taliban, have made hundreds of threats against journalists and the media.

●DFAT「出身国情報報告 アフガニスタン」(2017 年 9 月 18 日) ※更新前

3.34 Journalists attempting to cover the continuing conflict face an acute risk of violence from both anti-government elements and state actors. Reporters Without Borders directly connected the killing of three Afghan journalists and seven media assistants in 2016, and of one journalist and seven media assistants in 2017, with their journalistic work. These figures do not include a January suicide attack against a minibus transporting staff of the Tolo media organisation that killed eight civilians and injured up to 30 others. The Taliban claimed responsibility for this attack. According to UNAMA, journalists operating in areas affected by armed conflict (particularly Farah, Kunduz and Uruzgan provinces), reported practising self-censorship as a measure of self-protection against direct or perceived threats or intimidation. In 2016, the Taliban issued at least 11 statements threatening media.

カ UNHCR「アフガニスタン出身の庇護希望者の国際保護の必要性評価に向けた UNHCR の見解」(2016 年 4 月 19 日) (更新前)

脚注 120 2016 年 1 月、タリバンはカブールのメディア関係者に対する自爆攻撃についての犯行声明を出した。市民 8 名が殺害され、24 名が負傷し、その多くはメディア関係者であった。…2015 年 10 月 12 日、タリバンは Tolo および 1 TV の報道機関を正当な軍事標的として明確に指定するとの声明を発表した。…

《参考》 法務省入国管理局「難民と認定した事例等について」(平成 29 年における難民認定者数等について・資料 2) (2018 年 3 月 23 日)

【事例 3】(判断のポイント)

出身国情報によれば、本国において、反政府武装組織が勢力を拡大したことにより、治安情勢が急速に悪化しており、本国政府の管轄下にあるのは全土の 5 割程度にすぎず、本国政府の統治能力が著しく低下した状態にあると認められ、また、反政府武装組織が自らに批判的な意見を報道したマスメディアを軍事目標としていることなども認められる。

申請者の申立て等によれば、申請者は、反政府武装組織が軍事目標としているマスメディアにコメンテーターとして出演し、反政府武装組織に反対する立場から政府の今後の展望などについて発言したところ、脅迫を受けたことが認められ、上記のような国内情勢に鑑みれば、帰国した場合、反政府武装組織から生命又は身体に危害を加えられるおそれがあり、また、本国政府による効果的な保護を期待できないと認められる。

11. 宗教の自由

(1) イスラム教シーア派

① シーア派全般

ア ●DFAT「[出身国情報報告 アフガニスタン](#)」(2019 年 6 月 27 日)

2.57 ISKP formally launched its Afghanistan operations in January 2015, pledging its allegiance to the ‘caliphate’ in Syria and Iraq. Initially based in Nangarhar province on the porous Pakistan border, ISKP has subsequently expanded its presence to approximately 30 districts across the country, primarily in the north and east. The UN has estimated the overall size of the group in Afghanistan at between 1,500 and 6,000. ISKP has identified its specific targets as the Shi’a community (see Shi’a), government and foreign military forces, and the Taliban, who had not previously been challenged by an insurgent group. Despite rigorous targeted operations against ISKP by the government and international military forces, and fierce fighting between the Taliban and ISKP in a number of provinces, ISKP has continued to carry out attacks and targeted killings.

② シーア派ハザラ人

ア [後記 12\(1\)](#)を参照

(2) イスラム教からの改宗

ア ●DFAT「[出身国情報報告 アフガニスタン](#)」(2019 年 6 月 27 日)

3.26 Prosecutions and convictions for apostasy or blasphemy have been relatively uncommon since 2001. The last arrests or prosecutions in relation to apostasy or blasphemy of which DFAT is aware occurred in 2014. Those accused of blasphemy or apostasy are, however, highly vulnerable to societal discrimination, which may take the form of extreme violence. In one notorious case in March 2015, a large group of people in central Kabul beat a woman to death, set her body on fire, and dumped it on a riverbank after a mullah had (falsely) accused her of burning a copy of the Koran. Several perpetrators, including serving police officers who failed to prevent the killing, were subsequently convicted and given sentences ranging from death by hanging (later commuted) to one year in prison.

3.27 Individuals converting from Islam have reported that they risked the annulment of their marriages, rejection by their families and communities, loss of employment, and possibly the death penalty. …

12. 国籍、民族および人種

(1) ハザラ人

① シーア派ハザラ人

ア ●英国内務省「[国別政策及び情報ノート アフガニスタン：タリバンの恐怖、1.0 版](#)」(2021 年 10 月)

a. Hazaras/Shia

...

5.7.8 In an article published June 2021 by Time magazine, it was noted with reference to attacks on Hazaras, that:

‘ISIL-K wants these Shia “heretics” dead. Perhaps surprisingly, Taliban attacks on civilians generally avoid Hazaras, but they are not their protectors. A Taliban spokesman explained their plans to Islamicize the country in their image, while Taliban military gains led a commander to boast, “When we arrive in Kabul, we will arrive as conquerors.”

‘These are ominous signs for all minorities and human rights advocates in Afghanistan. But for the Hazara and their youth, the stakes surrounding the U.S. withdrawal are existential...’¹⁴¹

...

5.7.10 On 19 August 2021, Amnesty International reported that between 4 to 6 July 2021, ‘Taliban fighters massacred nine ethnic Hazara men after taking control of Afghanistan’s Ghazni province.’ Amnesty International stated it interviewed eye witnesses and reviewed photographic evidence of the events, which saw 6 men shot and another 3 tortured to death¹⁴⁴.

イ ●EASO [「出身国情報報告 アフガニスタン: 治安状況の更新」](#) (2021 年 9 月)

1.4.2 Number of security incidents

...

According to UNAMA the use of non-suicide IEDs in targeted attacks in the first half of 2021 increased fourfold compared with the same period in 2020 (737 casualties, 178 killed and 559 injured). AntiGovernment Elements targeted civilians, including human rights defenders, media workers, religious elders, civilian government workers, and humanitarian workers, and members of the Hazara ethnicity and Shi’a Muslim religious minority in sectarian attacks.²⁶⁰ USDOD reported at least 40 incidents targeting, and in most cases killing, ‘prominent Afghan civilians’ in the first quarter of 2021, including civilian government officials, educators, religious scholars, tribal leaders, medical workers, journalists, and activists. Most were killed in hit-and-run shooting incidents or by magnetic explosives (‘sticky bombs’) attached to the target’s vehicle. The Taliban denied involvement in these attacks, though the Afghan government held them responsible.²⁶¹ Targeted attacks on humanitarian workers included deminers working for the Halo Trust on 8 June in north-eastern Baghlan Province, when at least 11 people were killed and 15 others wounded²⁶² and polio vaccination workers on 15 June.²⁶³ USDOD reported that the campaign of targeted killings had contributed to ‘an increased feeling of general insecurity among the population’, especially in Kabul.²⁶⁴ UNAMA reported a resurgence of ‘deliberate sectarian

motivated attacks against the Shi'a Muslim religious minority', mostly the Hazara ethnic minority. Nearly all the 20 incidents during this period were claimed by ISKP and included shootings and nonsuicide IED attacks, some involving buses and other vehicles transporting members of the Hazara community, resulting in 500 civilian casualties (143 killed and 357 injured).²⁶⁵

...

ウ ●DIS [「アフガニスタン：治安状況の最近の変化、民間人や標的にされた個人への影響」](#) (2021 年 9 月)

Targeted individuals

...

There have also been reports of Taliban targeting ethnic and religious minorities during their conquest of Afghanistan, Notably Afghanistans Hazara population.¹⁰⁰ SER assessed that Hazaras in country would face discrimination going forward as the Taliban views them as infidels.¹⁰¹ According to a report from Landinfo, on the other hand, the Taliban leadership has on the other hand tried to reach out to the Hazara community in Afghanistan since their takeover.¹⁰²

エ DFAT [「出身国情報報告 アフガニスタン」](#) (2019 年 6 月 27 日)

ハザラ

...

3.9 2001 年のタリバン崩壊以降、ハザラ人は、とても低い水準からではあるが、アフガニスタンにおいて、社会的、政治的、経済的に大きな利益を上げてきた。しかし、タリバンや他のグループによって行われている武力反乱が続いているため、アフガニスタンの進歩の持続可能性に疑問が生じている。ハザラ人にとっては、2016 年半ばにイスラム国ホラサン州 (ISKP) を含む過激派グループによるシーア派に対する宗教的動機に基づく攻撃が問題となって以来、このような疑問はさらに深刻化している（「シーア派」を参照）。アフガニスタン人のあらゆる民族がアフガニスタンの将来について不安を感じている中、ハザラ人が過去に経験したタリバン下での生活や先に述べた差別的な出来事は、多くの人に自分たちのコミュニティの長期的な見通しについて特に懸念を感じさせた。豪外務貿易省 (DFAT) は評価している。この懸念は、多くのハザラ人がアフガニスタンを離れるという決断を下す重要な要因である。

3.14 ほとんどのアフガニスタン人は、ハザラ人について、多くのハザラ人を（下級レベルであるが）雇用している政府に対する積極的な支持者であると認識している。これは特にハザラ人の女性に当てはまり、女性の警察や軍の新人に占め

る割合が不釣り合いであるという逸話をつくりだすほどである（実際にこれらの役職に就く女性の数が比較的少ないにもかかわらず）。アフガニスタンに拠点を置く国際機関もまた、多くのハズラ人を雇用している。ハズラ人は、アフガニスタンの外に住む大規模なハズラ人コミュニティがあるため、他の民族グループよりも国際的なつながりを持つ可能性が高い。

- 3.15 国際的な評者らは、違法な課税による金銭の強要、強制的な採用と強制労働、身体的虐待、拘留という形でのハズラ人に対する社会的差別の事例を報告している。これらの事例について、地理的な場所を含む具体的な情報が提供されていないため、豪外務貿易省（DFAT）はその真相についてはコメントすることができない。「人種・国籍」で述べた通り、社会的差別の事例は、対象となる民族グループが少数派である場合に発生する可能性が高い。

...

- 3.33 シーア派に対する攻撃の数と規模は 2017 年を通して増加した。国連アフガニスタン支援ミッション（UNAMA）は、2017 年に、シーア派の礼拝所および／または礼拝者に対する宗教的動機による 8 件の攻撃により、161 人の死者と 252 人の負傷者が出たことを記録している。イスラム国ホラサン州（ISKP）は、このうち、カブール市で起きた 4 件とヘラート市で起きた 2 件、合計 6 件の攻撃（そして死傷者のほぼ全て）について責任を主張した。残りの 2 件の攻撃はヘラート市で起きており、民間人 1 人が死亡、5 人が負傷したが、タリバンによる仕業であった。また、ISKP は、さらに、2017 年 12 月に起きた、礼拝所以外の場所や礼拝者の集団以外のシーア派を標的にした 2 つの攻撃に対する責任も主張した。これらの攻撃は、ヘラート市の大部分の住民がハズラ人である地区の図書館と、カブール市の政治集会中のシーア文化センターを標的に行われ、合計 46 人の民間人の死亡と 87 人の負傷者を出した。

...

オ [UNHCR「アフガニスタン出身の庇護希望者の国際保護の必要性評価に向けた UNHCR の見解」](#)（2018 年 8 月 30 日）

13. 民族的（少数派）集団の構成員

...

アフガニスタンにおける民族的分断は依然として強い。マイノリティ・ライツ・グループ・インターナショナルが作成している「脅威に晒されている民族指数（Peoples under Threat Index）」は、特に民族および宗教に基づいて個人に対する標的を絞った攻撃が行われていることを理由として、アフガニスタンは民族的少数派にとって世界で 5 番目に危険な国であるとしている。同指数は、アフガニスタンで危険に晒されている民族集団として、特にハズラ民族、パシュトゥーン民族、タジク民族、ウズベク民族、トルクメン民族およびバルーチ民族に言及している 583。

b) ハザラ民族 (Hazaras)

ハザラ民族は継続的な社会的差別に直面しており、また違法な課税を通じた強奪、強制的徴集・強制労働、身体的虐待および拘禁の標的にされていると報じられる 595。大多数がシーア派である ハザラ民族は、多数派を占めるスンニ派によって歴史的に疎外・差別されてきた 596。2001 年にタリバン政権が崩壊して以降、ハザラ民族は経済的・政治的に相当の前進を遂げたと報じられるものの 597、報告によれば、近年、タリバン、イスラム国およびその他の AGEs による嫌がらせ、威嚇、誘拐および殺害が著しく増加している 598。

カ EASO「COI レポート：アフガニスタン 紛争下において武装主体の標的にされる者」(2017 年 12 月)

1.2.10 ハザラ族とシーア派マイノリティ

1.2.10.1 背景情報

アフガニスタンにおいて、人口の 10 パーセントから 15 パーセントが、シーア派イスラム教徒であると推定されており、その大多数がシーア派ハザラ族であるとされている。シーア派ハザラ族は主に 12 イマーム派であり、これにはアフガニスタン西部のファルシワン（ペルシャ語話者コミュニティ）や、より少数なバヤット族、クズルバシュ族そしてサイイド族も含まれる。ハザラ族のうち、一部は自らをサイイド族であると称しているが、全てのサイイド族がハザラ族であるという訳ではない。

12 イマーム派の他には、主にバダフシャーン、バグラーンそしてカブールにシーア派イスラム教徒は存在する。タジク族の者の他、ハザラ族やサイイド族の者がおり、小規模のスンニ派ハザラ族も存在する。

シーア派ハザラ族は、長期間に及んで多数派のスンニ派からの差別を受け続けてきた。1990 年代のタリバン統治下では、1998 年にマザーリ・イ・シャリーフにて、そして 2001 年にバーミヤーン州の Yakawlang にて、タリバンによるハザラ族に対する大虐殺が複数回なされたほか、1993 年にはカブールのアフシャール付近でサヤフの Ittihad-i Islami 勢力によってなされるなど、その他のスンニ派グループによる大虐殺も行われた。

2001 年のタリバン政権崩壊後は、ハザラ族もその社会的地位を取り戻した。アフガニスタン憲法（2004 年）第 4 条は、ハザラ族もアフガニスタン国家の構成員に含む旨の規定をしている。新憲法はイスラム教を国教とし、特別の定めがない限りはハナフィー法学を適用すると定めている。アフガニスタンにおける移住や教育、雇用機会の急速な発展を受け、ハザラ族は 2001 年以降、確固たる地位を確立していった。しかしながら、カナダ移民難民局（以下、「IRB」とする）の調査部門が取材した 2 名の教授はこれに対して、このような急速な社会的・経済的進歩に対して、他の民族は疑念、警戒心そして憤り等を感じている可能性があるとして述べた。

1.2.10.2 2017 年 9 月の状況

2016 年に UNAMA は、シーア派イスラム教徒マイノリティに対する計画的な宗派間攻撃の傾向出現に対する懸念を示した。この攻撃の傾向は 2017 年前半まで続いた。ボーハン・オスマンによると、ハザラ族や他のシーア派が攻撃対象とされた複数の事件は主に 2 つのタイプに分類することができる。

- ・シーア派が、カブールやマザーリ・イ・シャリーフ等の都市での宗教的な式典やカブールでの政治的デモ行進のために、カブールやヘラートのモスク等の都市部に集結した際の攻撃

- ・ハザラ族がバスの中から個別に標的にされた事例。こうした事件は、バグラーン州、サーレポル州、ゴール州、ワルダク州、ガズニー州、ザーブル州等のより地方部の地域で起きた。類似の事例は、マザーリ・イ・シャリーフやバグラーンにあるハザラ族の村が攻撃されたものである。

アナリストのボーハン・オスマンは、民族グループや宗派のみを理由としてハザラ族やシーア派が攻撃対象となる主なリスクは、都市部での集会や宗教の式典、デモ行進で生じると言及する。この攻撃のパターンは、アフガニスタンでの紛争により生じる新たな原動力となるものであり、これにつき何らかの結論付けを行うには未だ早すぎるとオスマンは話す。しかしながら、Anad Gospital は、このような攻撃パターンは増加傾向にあると話す。

一方で、UNAMA のデータによると、ハザラ族への攻撃や拉致は 2015 年から 2016 年にかけて減少したように思われる。UNAMA は 2016 年に 16 件の拉致事件を報告したが、そのうち合計 85 名がハザラ族であった。多くは無傷で解放されたが、5 名が殺害された。また 2015 年に、武装勢力らは 26 件の拉致事件で 224 名のハザラ族を拉致した。

シディークとオスマンは、ハザラ族が個別に標的にされて殺害や拉致される事件の多くは、ほかの理由に基づき引き起こされたものであるという見解を示している。これらの理由としては、非政治的な集団紛争やその他の理由、例えばハザラ族が ANSF の一員であった等がありうる。これらのケースの場合、ボーハン・オスマンによると、彼らはその民族性に関係なく個別に標的にされる。2015 年 2 月にザブルで起きた大規模拉致事件は例外かもしれないが、アフガニスタン・アナリスト・ネットワーク（以下、「AAN」とする）とヒューマン・ライツ・ウォッチの元調査員で、現在はアフガニスタン研究評価ユニット（以下、「AREU」とする）の調査員を務めるアナリストの Qayoom Suroush は、ハザラ族を対象とした事件の調査に関する AAN の報告書で、より早い時期に同じ結論を述べている。ハザラ族が道中においてよりリスクを負う一方で、カナダ移民難民局（以下、「IRB」とする）とノルウェーLANDINFO は、これらの高まるリスクをハザラ族がより頻繁に移動するという事実やそれ故に道中に多くいるという事実、また NGO セクターや高い地位の政府職員となっているという事実と関連付けている。

また、2016 年度の国際連合人権高騰弁務官事務所（以下、「OHCHR」とする）の報告書によると、民族や宗教を理由とする差別は、ハザラ族を攻撃した多くの事

件の動機としては報告されていない。2017 年 8 月にサーレボル州のハザラ族が過半数を占める村が標的とされた際について、AAN の共同責任者は、タリバンに対する現地の謀反勢力が村の中に匿われていたことが動機となっていたという事実と言及した。UNAMA は、村への攻撃が民族的・宗教的動機付けによるものであったという主張を根拠づける情報は受け取らなかった。2016 年 5 月のバグラーン州にあるハザラ族の村での攻撃で、Obaid Ali は、タリバンとハザラ族の取決めに反する対タリバン軍事作戦へのハザラ族の支援が動機にあったと説明した。

アナリストのオスマンと Qayoom は、こうした事件に関する報告は推測にすぎない事実をあたかも真実であるかのように記しており、間違いだらけであること、そして、過激的なハザラ族の発言のせいによって誤解を招きかねないことを主張する。Anand Gopal は多くのハザラ族が非武装地域（ガズニー州の一部地域を除く）に居住していることから、武装地域に居住するパシュトゥーン人と比較して、現在アフガニスタンで最も攻撃対象とされにくい民族であると見ている。しかしながら、UNHCR はこれに対して、シーア派住民がカブールやヘラートにおける犠牲者の中で過度に大きな割合を占めていることに言及した。米国国務省によると、スンニ派の対シーア派差別は減少しており、一部地域に存在するのみであるとされているが、それと同時にハザラ族に対する差別は今なお残っている。

キ 米国国務省「[宗教の自由 2016 年 - アフガニスタン](#)」（2017 年 8 月 15 日）

タリバン（Taliban）及びコラーサーン州のイスラム国（Islamic State in Khorasan Province: ISKP）（ISIS の下部組織で米国からテロ組織に指定されている）は、少数派宗教コミュニティに属する人々を、そうした人々の信仰や政府との結び付きを理由に、攻撃し、殺害し続けた。ISKP は、シーア派コミュニティに属する 100 人以上の人々を殺害した攻撃に対する犯行声明を公式に出した。（2016 年）7 月に、シーア派が多数を占めるハザラ人（Hazara）コミュニティの人々が主に参加した抗議活動を標的として自爆テロが発生し、少なくとも 97 人が死亡して、260 人以上の負傷者が出た。10 月には、銃で武装した男たちが Karte-Sakhi モスクに侵入して、シーア派のアーシューラー（Ashura）の祭日を祝うために集まっていた信者に発砲し、女性と子供を含む 17 人の信者が死亡して 58 人が負傷した。ISKP は、これら 2 件の事件に対する犯行声明を出した。タリバンはシーア派ハザラ人を狙った多くの誘拐に関与しており、タリバンのイスラム教解釈に反する説教を行ったという理由で、牧師を殺害するとの脅迫を続けた。

...

報道機関は、タリバン、ISKP、その他の反政府組織による、報じられた政府とのつながりやイスラム教解釈を理由とする個々の宗教指導者を標的とした攻撃に加え、ハザラシーア派（Hazara Shias）などの特定の宗教及び民族宗教集団を標的とした攻撃を相次いで報道した。

（2016 年）7 月に、主にハザラシーア派から構成される NGO、啓蒙運動（Enlightenment Movement）によって組織されたカブールでの抗議デモが自爆テロ

によって攻撃された。少なくとも 97 人が死亡し、260 人以上が負傷した。攻撃の直後に、ISKP はそれをシーア派コミュニティに対する「殉教攻撃」と呼び、同組織のアマーク通信（Amaq News Agency）を通じた声明の中で爆撃の犯行を宣言した。

...

（2016 年）6 月に、北部のサル=イ=プル（Sar-i-Pul）州で、未知の武装勢力がバスから 17 人のシーア派ハズラ人を誘拐した。州評議会の委員は、おそらくタリバンが、前日の衝突の間にアフガニスタン軍によって拘束された地方司令官と交換するために、乗客を誘拐したのだろうと語った。この事件は、タリバンがクンドゥーズ（Kunduz）州でバス車隊を待ち伏せして、13 人を殺害し、他の数人を人質に取ってから 2 日後に発生した。地元の部族の長老が仲介して、誘拐被害者を解放させることに成功したという。

（2016 年）9 月に、バーミヤン（Bamiyan）からカブールへ旅行している 8 人のハズラ人が、ヴァルダク（Wardak）州の警察の検問所からちょうど 150 メートル離れた地点で誘拐されたという。別の事件では、ゴール（Ghor）州で武装勢力が 2 台の乗客バンを停止させた。武装勢力は、ハズラ人であると認識した 5 人の乗客を選び出し、銃を突きつけて彼らを連れ去った。政府関係筋によると、ハズラ人を誘拐したのはタリバンで、拘束されている司令官と交換するための人質にするのが目的だったという。政府軍が人質の解放を試みた際に 1 人の学生が殺害されたが、仲介のために部族の長老が介入し、残りの人質はその後解放された。ガズニー（Ghazni）では、タリバンが 6 人のハズラ人学生を誘拐しようとしたのを受けて、タリバンと政府治安部隊の間に衝突が発生し、その間に学生 1 人が死亡した。10 月に、タリバンはカブール・バーミヤンハイウェイ（Kabul-Bamiyan Highway）を移動中の 25 人のハズラ人を誘拐した。彼らは地元の部族の長老が仲介して、解放されたという。

ク UNHCR [「アフガニスタン出身の庇護希望者の国際保護の必要性評価に向けた UNHCR の見解」](#)（2016 年 4 月 19 日）

シーア派の議員数の割合は、全人口におけるシーア派の割合とおおよそ同じである。スンニ派によるシーア派コミュニティに対する公然とした差別は減少したと報告する情報源もある一方で、そのような差別が続いていると報告する情報源もある。さらに、AGEs によるシーア派を標的とした暴力的な攻撃は発生し続けている。アフガニスタンでは民族と宗教が密接不可分であることが多く、大半がシーア派であるハズラ族の場合は特にそうであることに留意する必要がある。その結果、差別および不当な取扱いが宗教を根拠とするものなのか、民族を根拠とするものなのか、はっきりと区別することは必ずしも可能ではない。

...

b) ハズラ族（Hazaras）

ハザラ族は社会的差別に直面し続け、違法な課税を通じた強奪、強制的徴集および強制労働および身体的虐待の標的にされていると報告されている。ハザラ族は歴史的にパシュトゥーン族によって疎外・差別されてきた。ハザラ族は、2001 年のタリバン政権の崩壊後、著しい経済的・政治的発展を遂げたと報告されているものの、さらに近年においてタリバン・その他の AGEs による嫌がらせ、脅迫、誘拐、殺害の事例が著しく増加していると報告されている。

492 …2015 年、ハザラ族の誘拐の件数（特に移動中の）が増加した、と報告されている。2015 年初頭には、タリバンの元指導者 2 名の指揮下にある ISIS 戦闘員がハザラ族男性および少年数十名を誘拐したと報告されているが、この誘拐の犯行声明を出した集団はいなかった。Radio Free Europe / Radio Liberty... 22 April 2015...; AFP... 17 March 2015... 2015 年 8 月、Nawur 地区でハザラ族男性 3 名が誘拐され、殺害された。Radio Free Europe / Radio Liberty... 13 August 2015... 2015 年 9 月、バルフ州にてハザラ族男性 13 名がバスで移動中に正体不明の武装集団によって射殺された。武装集団はおそらくタリバンだとされている。Radio Free Europe / Radio Liberty... 5 September 2015... 2015 年 11 月、ザーボル州にてハザラ族 7 名（女性 2 名と子ども 1 名を含む）が誘拐され、その後斬首された。当初は、犯行に及んだのは ISIS の戦闘員だという報告が複数あったが、その後 NDS はこれらの申し立てを「タリバンのプロパガンダ」と見なした。他にも、ウズベキスタン・イスラム運動（IMU）の構成員に責任があるとする報告もあった。この事件は、カブールやその他の町での抗議活動の引き金となり、異なる民族のアフガニスタン人が治安対策の強化を求めた。以下を参照のこと…同じく 2015 年 11 月に、ザーボル州にてハザラ族の 14–30 名がバスで移動中に誘拐された。地元当局によると、この誘拐事件はタリバンとの羊に関する対立に続いて起こった。しかしながら、同攻撃について犯行声明を出した集団はなかった。New York Times... 21 November 2015...; Free Radio Liberty... 21 November 2015... 以下も参照のこと…マイノリティ・ライツ・グループ・インターナショナル（Minority Rights Group International）は、「[カブール・ハザラジャート間の、国の中央にある] 主要な道路で起こったこの暴力事件は、ハザラジャートを一層孤立させ、結果その発展を膠着させた。というのも、学校や診療所などの施設の建設にはカブールからの労働力や資材が必要だからである。この 2 つの要因により、現在カブールに居住しているハザラ族の数が多くなっている。彼らの大半は、過密地域である Dasht-e-Barchi 一か所に集中している。」としている。Minority Rights Group International...2 July 2015...

ケ 記事「[Khas Uruzgan, Jaghori および Malestan へのタリバン攻撃：ハザラ人地域への新たな暴力的な侵攻](#)」AAN（2018 年 11 月 28 日）

2018 年 10 月下旬、タリバンは、ハザラ人地域にこれまで以上に深入りした。彼らはまず、悪名高い元アフガン地方警察（ALP）司令官のハキム・シュジャイ氏を

マレストンにまで追い詰め、その後、ジャゴリ地区への攻撃を開始し、その後、マレストンの地区中心部を攻撃し、ほぼ崩壊に追い込んだ。これらの攻撃は、その範囲と規模において前例のないものであり、大規模な避難者を生んだ。ここでは、AAN のアリ・ヤウル・アディリとマルティン・ヴァン・ビジュラートが（トーマス・ルッティング、ファザル・マズハリおよびエサン・カーネからの情報提供を受けて）まず攻撃の詳細を調べ、次に攻撃の背景の詳細と分析を伝える。

② ハザラ人女性

ア [前記 4\(2\)](#)参照

13. その他

(1) UNHCR の見解

ア ●UNHCR「[アフガニスタンへの帰還に関する UNHCR の見解（UNHCR Position on Returns to Afghanistan）](#)」（2021 年 8 月）

Non-Return Advisory

7. As the situation in Afghanistan is volatile and may remain uncertain for some time to come, coupled with an unfolding humanitarian emergency in the country,¹⁰ UNHCR calls on States to suspend the forcible return of nationals and former habitual residents of Afghanistan, including those who have had their asylum claims rejected. A moratorium on forced returns to Afghanistan would need to stay in place until the situation in the country has stabilized, pending an assessment of when the changed situation in the country would permit return in safety and dignity. The bar on forcible return serves as a minimum standard and needs to remain in place until such time as the security, rule of law, and human rights situation in Afghanistan has significantly improved to permit a safe and dignified return of those determined not to be in need of international protection.
8. In line with the commitment by UN Member States under the Global Refugee Forum to the equitable sharing of responsibility for international refugee protection, UNHCR also considers that it would not be appropriate to forcibly return nationals or former habitual residents of Afghanistan to countries in the region, in view of the fact that countries such as Iran and Pakistan have for decades generously hosted the vast majority of the total global number of Afghan refugees. ¹¹ .
9. UNHCR will continue to monitor the situation in Afghanistan with a view to assessing the international protection needs arising out of the current situation.

イ UNHCR「[アフガニスタン出身の庇護希望者の国際保護の必要性評価に向けた UNHCR の見解](#)」（2018 年 8 月 30 日）（更新前）

ウ UNHCR「[アフガニスタン出身の庇護希望者の国際保護の必要性評価に向けた](#)

UNHCR の見解 (2016 年 4 月 19 日) (更新前)

以上

略語

AI	アムネスティ・インターナショナル
CGRS	ベルギー難民及び無国籍者庁
CIA	米国中央情報局
CRS	米国議会調査局
DFAT	オーストラリア外務貿易省
EASO	欧州難民支援局
HRW	ヒューマン・ライツ・ウォッチ
ICG	インターナショナル・クライシス・グループ
IDMC	国内避難民監視センター
IRBC	カナダ移民難民局
IRDC	アイルランド難民ドキュメンテーションセンター
Landinfo	ノルウェー政府出身国情報センター
MRGI	マイノリティ・ライツ・グループ・インターナショナル
OECD	経済協力開発機構
OHCHR	国連人権高等弁務官事務所
OSAC	米国海外安全保障評議会
UNHCR	国連難民高等弁務官事務所
USCIRF	米国連邦政府国際宗教自由に関する委員会
WRGI	World Rights Group International;